

平成28年度 岐阜県教育委員会

政治的教養を育むカリキュラム開発事業

(主権者教育推進事業)

事業報告書

平成29年 3月 31日

岐阜県立可児高等学校

(研究指定校)

概 要

- 調査の結果、地域や大人との関わりが豊かな生徒には、進路意識・学習意欲・課題解決能力・地域参加意欲等に一定の向上がみられた半面、政治参加意欲では優位な差が認められなかった。また、視察の結果、生徒の変容が顕著か否かは、地域学習を教育課程に位置づけているか否かであることが明らかになった。
- 次期学習指導要領において「社会に開かれた教育課程」や「対話的で協働的な深い学び」が強調されている点もふまえ、本校では今後「地域課題に関する意思決定にむけた多様な関係者との対話」を核とする模擬選挙を教育課程に位置づけ、主権者教育を展開することとした。

1. 経緯

- 平成 28 年 3 月、可児市議会・可児市選管・緑塾等の支援を受けて実施した模擬選挙（→p. 5）は、外部から優良事例として評価され、参院選で有権生徒の投票率が 90 %に達する等、高い学習成果を収めることもできた。一連の実績に基づき、今年度、主権者教育の研究指定を受けた。
- 県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業（H25～27 年度）からの流れもふまえ、主な研究内容として「主権者教育と地域課題解決型キャリア教育の統合」を位置づけることになった。あわせて、大学入学者選抜改革や新教育課程に対応していくため、探究活動・アクティブラーニング・高大接続等との有機化も模索することとした。

2. 研究主題

社会形成に対する高校生の当事者意識を変容させる要因に関する実証的研究

3. 仮説

政治参加の土台となる「地域に対する関心」や「社会をよくしようとする活動への参画意識」は、地域や大人との関わりが豊かになるほど高くなる。

4. 研究方法（概略）

- ① 地域への関心・当事者意識・参画姿勢等について、定点観測的に実施してきた年 2 回の生徒アンケート等を通して、次の集団間で比較対照を行う。
 - ・ 1 年の夏に開催される「夏の!OPEN エンリッチ・プログラム」に全員が参加するようになる前の学年（34～35 期生）と後の学年（36～37 期生）
 - ・ 継続的・発展的な活動に参加している生徒と、それ以外の生徒
- ② 本校における実践の普遍性や固有性を見極めるため、地域課題解決型キャリア教育にとりくむ全国各地の先進地を視察し、分析を行う。

5. 一年間の実践（概略）

- 4～5月、上記①に記したプログラム（企画：NP0法人 緑塾）の効果を高めるため、連携事業の円滑な実施に必要な計画を地域関係者と共有し（→p. 6）、できる限り学校側の懸念を解消した上で、資料（→p. 7）やリーフレット（→p. 8～9）、注意事項（→p. 10）等を作成し、全学年の生徒に配布した。また、実施時にプログラム間で質的な差が生じないように、進行マニュアル（→p. 11～12）を作成し、事前に運営者と共有した。
- 6～7月には、活動の成果を検証するための資料としてリフレクションシート（→p. 13）を作成し、運営者と共有した上で、各プログラム（→p. 14～17）の終わりに記入させて回収し、全プログラム終了後に集計（→p. 18～19）するとともに、生徒の感想やふりかえり結果を拾った（→p. 20）。つづいて9月に生徒アンケート（→上記①：p. 21～23）を実施し、河井亨先生（立命館大学教育開発推進機構・講師）の助言を得て分析した成果（→p. 24～30）も検証資料に加えた。
- 9～10月には、地域連携における先進校（→p. 31）を手分けして視察し、視察者が集まって分析を行って今夏の実践を総括し、校内で共有した（→p. 32～35）。
- 11～12月には、総括内容をふまえ、主権者教育について次年度にむけた構想や当面の計画を具体化し（→p. 36～37）、校内で共有した（→p. 38～41）。構想の実現に有効な活動手法として「K

P法」が浮上し、追加的な視察を行った（→p. 42）。

- 次年度にむけた重要な布石として、12月に冬のエンリッチ・プログラム（→p. 43～45）、2月に高校生議会（→p. 46～53）、3月に春のエンリッチ・プログラム（→p. 54～57）を企画&運営した。
- 地域連携に基づく一連の課外活動と並行し、年間を通して、国語・現代社会・物理・化学等において、主権者教育と授業の内容や作法を有機化する試みを行った（→p. 58～60）。
- 3月末には、本校が考える主権者教育の基盤である地域連携を円滑化するために、校内組織の改編（→p. 61）を行ったほか、活動を充実させるために、保護者の参加を促す準備もすすめた（→p. 62）。

6. 研究成果（分析結果）

- ① リフレクションシートを集計した結果、どのプログラムも各項目において高いスコアが表れており（→p. 18～19）、当初の目的は概ね達成できたことが分かる。
- ② 非エンリッチ生を、34～35期生は「一度も地域と関わったことのない生徒」、36～37期生は「夏の!OPEN エンリッチに一度だけ参加した生徒」と定義したが、36～37期生は34～35期生に対して、非エンリッチ生の「進路意識」や「学習意欲」に関わる項目のスコアが高い（→p. 24～26）。これは「地域との関わりが豊かなほど、進路意識や学習意欲が高まる」ことを意味する。
- ③ エンリッチ生の定義は「地域と継続的な関わりをもった生徒」であるが、スキルや地域参画に関する項目において、エンリッチ生は非エンリッチ生に対して「スコアの伸び」が顕著であり（→p. 26～29）、継続的な参加が「地域課題に対する当事者能力の向上」に効くことが分かる。
- ④ 国政に関わる項目では、エンリッチ生は非エンリッチ生に対してスコアが高いものの、伸びはみられない（→p. 29～30）。ここから「地域で課題解決に参加した経験を、より広い世界の在り方を変える意思決定へとつなげる丁寧な働きかけがないと、「日本全体を見渡す広い視野」や「国政への参画意識」は十分には向上しないことが分かる。
- ⑤ 先進校視察の成果を分析した結果、社会形成意識の向上に成功している学校は、地域側の体制が充実している点に加えて、「地域課題解決活動を教育課程に位置づけて丁寧に実施している」点で共通していることが分かった（→p. 31～35）。

7. 来年度計画への反映

上記の分析結果に基づいて今後の方策を検討した結果、本校では来年度以後、主権者教育を他の諸活動と絡めて、教育課程内で以下のように展開していくこととなった（→p. 36～41, 47～48）。

- 新学習指導要領において「社会に開かれた教育課程」が基軸となっている点をふまえ、今後、「対話的で協働的な学び」は、「夏の OPEN エンリッチ」から「模擬選挙」へとつながる地域課題解決プログラムを教育課程に位置づけ、ここで重点的に展開していく。
- 教育課程の一環として実施していくため、「年間サイクル」を確立する。
※ これまで、準備や運営に相当の労力を要することから、昨春型の模擬選挙は「隔年実施」という申し合わせがあったが、教育課程への埋め込みに伴って毎年の実施が必要となり、そのために「年間サイクル」の確立が必須となった。
- 平成29年度の模擬選挙は、昨春と同様の活動を、11月2日（木）午後に実施する。
- 認識の深化に有効な多様性を高めるため、グループ討議にPTAや地域関係者に参加を依頼する。

8. 来年度にむけた準備

- 冬のエンリッチを通して、模擬選挙にむけて議会や選管等とともに企画をすすめる生徒の発掘や意識づけを進め、組織化に見通しをつけた（→p. 43～46）。
- 高校生議会（2月9日）や、事前事後の学習活動等を通して、生徒を組織化した（→p. 49～57）。
- 主権者教育と各授業科目の有機化を、内容（→p. 58～59）と作法（→p. 60）の両面で進めた。
- 主権者教育の基盤となるエンリッチの活動を、他の学校行事・部活動・生徒会活動等と調和的かつ無理なく実施していけるよう、これまで改革推進部で担当していたエンリッチ関連業務を、特別活動部へと移管した（→p. 61）。
- 保護者や地域関係者に参加や協力をよびかける配布資料を作成した（→p. 62）。

資 料 目 次

これまでの経緯 = 昨年度(H27年度)の実践 (写真)	5
「夏の!OPEN エンリッチ 2016」にむけた動き	6
エンリッチ・プロジェクトとは? (生徒説明資料)	7
夏の!OPEN エンリッチプロジェクト 2016 (リーフレット)	8～9
夏の!OPEN エンリッチに行く前に (生徒むけ注意事項)	10
〃 運営者用 イン트로ダクションシート	11～12
〃 生徒用 リフレクションシート	13
〃 活動風景 (写真)	14～17
〃 リフレクションシート 集計結果一覧表	18～19
〃 活動報告/生徒の感想 (可児高だより第146号=H28.10.13発行)	20
事業評価用 定期アンケート 質問紙 (抜粋)	21～23
〃 分析結果 (①進路意識/②学習意識/③スキル/④地域参加/⑤政治参加)	24～30
先進校視察 選定理由&主要質問項目	31
〃 視察職員用 まとめに关するお願い	32
〃 分析資料 第1報 (11/8 職員会議 報告資料)	33～34
〃 分析資料 別表: 視察先各校の特徴 (相互比較) (〃)	35
分析結果をふまえた総括および次年度への展望 (スライド)	36～37
H29年度の模擬選挙にむけた流れについて (11/29 企画委 提案資料)	38～41
K P法 (Kamishibai Presentation = 生徒の思考整理を促す技法) 視察報告 (写真)	42
冬のエンリッチ・プログラム (教室掲示資料)	43
〃 行政クロスロード, 地域医療 I P E 活動風景 (写真)	44～45
高校生議会について (1/10 企画委 提案資料)	46
"模擬選挙"的な教育活動の教育課程への埋め込みについて (1/31 企画委 提案資料)	47～48
冬のエンリッチ・プログラム 高校生議会 (教室掲示用資料)	49
〃 高校生議会 事前学習ワークシート	50～52
〃 高校生議会 参考資料 (リンク集)	53
〃 高校生議会 事前学習～事後学習を含む活動風景 (写真)	54～57
「高校化学を通じてエネルギー問題を考える」 (教科と有機化した実践資料)	58～59
K P法を活用した物理の授業風景 (写真)	60
エンリッチの諸活動を担当する係の部署変更について (1/24 改革推進部会資料)	61
「模擬選挙」への参加依頼 (次年度 保護者配布予定資料)	62
決算報告書	63



「夏の!OPENエンリッチ2016」にむけた動き（案）

月	日	曜	会 議	内 容	作 業	備 考
4	26	火		連①・本番にむけた動きの共有	企 画	
5	10	火	企④	・今夏の大枠を提案＆承認	デザイン	
5	17	火	職④	・今夏の大枠を提案＆承認		
5	23	月		連②・企画状況の共有	日時等調整	
5	27	金		・企画書 提出〆切	終了	・授業公開／報告会
5	31	火	企⑤	・内容の審査＆承認		
6	07	火	職⑤	・内容の審査＆承認		
6	08	水		連③・日程&会場確定	確定	
6	09	木		・パンフレット入稿	要項編集	
6	14	火		・パンフレット納品		
6	15	水		・1年学年集会（朝） 説明＆パンフレット配布		
6	27	月		・開催要項（名簿無）提出〆切	提出	
7	04	月		・申込〆切 / 参加先調整開始	申込受付	
7	05	火	企⑥	・実施要項（名簿無）審査＆承認	参加先調整	
7	08	金		・参加先調整 終了 →	名簿追加 参加先確定	
7	11	月		連④・実施要項（名簿付）細部迄共有		
7	12	火	職⑥	・実施要項（名簿付）承認＆共有		
7	15	金		・本番（～8/21頃）		・主期間：7/15-22
8	下旬			連⑤・総括 / 「秋の報告会」企画		
10	14	金		・秋のエンリッチ報告会		

エンリッチ・プロジェクトとは？

enrich エンリッチ・プロジェクトは 縁リッチ 学校と地域が縁を深めることにより

縁立知 学力向上(人づくり)と 縁立地 地域再生(まちづくり)を 一体的に展開する事業です。

Q 1. 「エンリッチ・プロジェクト」とは何ですか？

- この地域をよくしようと頑張っている大人の方々との関わりを通して、将来の進路や今の自分について考える「地域課題解決型キャリア教育」の通称です。
- このうち、7～8月の休日や放課後等に地域の主催で実施される様々なプログラムをまとめて「夏の！OPEN エンリッチ・プロジェクト」と呼んでいます。（→先日配付したリーフレット参照）

Q 2. 今夏、どんな活動をするのですか？ … 次の3つのタイプに分類できます。

- ① この地域に根を下ろして頑張っている方のスピーチを聞き、感想や気づきを共有するもの。
- ② 可児市や可茂地域がかかえる様々な地域課題について、大人と一緒に解決策を探るもの。
（人口減少・子育て・医療福祉・防災・地方自治・経済振興、など）
- ③ 地域をよくする活動やイベントに、スタッフやボランティアの立場で参加するもの。
（キッズクラブ、外国籍の子供に対する学習支援、夏祭りへの参画、など）

Q 3. ねらいは何ですか？

- 一言でいえば、皆さん一人ひとりに「どんなに苦しくても頑張り抜ける！」理由を持ってもらうためです。
- それは、大人との関わりを通して「いま世の中では何が必要とされているのか？」「誰が、どんな思いで、どんな課題に対して、どんな挑戦をしているのか？」を知った人の方が、よりの確かな進路を描くことができ、頑張り抜く理由に出会いやすいと考えるからです。
- 地域の方々は、「地元のよさを可児高生に知ってもらい、将来的に地元へ戻ってもらい、地域と一緒に盛り上げていけたらいいな！」という思いも持っておられます。

Q 4. 1年生だけの活動ですか？

- 1年生は「夏季に最低1つ参加」を推奨しています。（2～3年生は希望者のみ参加）
- 1つのプログラムに参加すると、総合学習の時間として2時間分カウントされます。
- 意欲と余力が伴う人は、夏休み以後、地元の団体等が主催する継続的な活動に参加し、学びを深めていくことも可能です。（既に参加している2～3年生もいます。）

Q 5. ほかに何かメリットはありますか？

- いま世の中では、一つの分野の専門家だけでは解決できない課題に対して、誰かが解決してくれるのを待っているのではなく、課題に関係のある多様な人々がつながり、皆が納得できる解決策と一緒に創りだしていく、そんな課題解決能力が求められています。キーワードは「主体性・多様性・協働性」です。
- エンリッチ・プロジェクトは、地域に実在する課題を解決しようと、日頃から本気で立ち向かっている方々と活動を共にしますので、このような力を高めるには非常に有効な機会であるということが出来ます。

Q 6. 「縁塾」とはどんな団体ですか？

- 多様なプログラムを高校生に提供するため、地元で様々な調整を行う団体です。
- 代表の松尾和樹さん（本校16期生）をはじめとするメンバーが、よりよいプログラムを提供しようと、地元で様々な方々に会い、趣旨や方法を一人ひとり丁寧に説明して下さっているおかげで、エンリッチ・プロジェクトは成り立っています。

夏の！OPEN エンリッチプロジェクト 2016 「自分が育つ」×「まちが育つ」 本気の大人とのコラボレーション。

自分の将来の
夢のためにもなるし、
普段は体験できない
ようなことも体験できて
楽しいです！
2年生男子

普段経験
できないようなことを
たくさん経験させてもらって、
私は本当に幸せ者だ
って思います！
3年生女子

面白い大人の
方々と出会い、楽しく
自分と地域のことを
考えられました！
3年生男子

学校では学べない
けど、これから必要
な力や知識を
つけられました！
3年生女子

先パイ 高校生 体験談

様々な
大人の方とお話
して新しいことを
知れることがとても
楽しかったです。
3年生女子

大人のひと
と交流するので、
自分の知らなかった世界
を知れました。
2年生男子

将来のビジョンが
経験前では
全く予想もつかないほどに
具体的なものにな
りました！
3年生男子

なかなか体験
できない大人との
かかわりで、
将来の想像力が
ついて自信になる！
2年生男子

〔主催団体〕縁塾

縁塾とは可茂地区の学校（小・中・高）と地域をつなぐコーディネート団体です。昨年度より可児高校・市議会・市役所・地元企業・NPO・市民有志と連携して、「地域課題解決型キャリア教育」通称：エンリッチプロジェクトを推進しています。生徒一人ひとりの人生がより豊かになり私達が住む地域が元気になる事を目指しています。

トークジャンル

《まちづくり》 《キャリア》 《多文化共生》 《防災》 《環境》 《教育》 《子ども》 《医療・福祉》
《金融》 《地方自治》 《外国語》 《ボランティア》 《おもしろい人》

1 7/15（金） ハトブキ山カフェ

自分の人生を自分らしく生きよう！

縁塾オールスターズ

みんなの未来は可児の未来、そして日本の未来！自分らしく生き働く縁塾メンバーとより良い未来創造のヒントを一緒に探りませんか？



《まちづくり》《キャリア》

2 7/15（金） 塩公民館

防災まち歩き 2016 夏

可児市防災の会

災害から身を守るために自分たちのまちをもっと知ろう！“まち歩き”をすることで避難場所や道を再確認、まちの魅力発見にも！



《防災》

3 7/16（土） 御嵩公民館

みたけコメクト（米食人）～ほやら！～

御嵩町職員 有志の会

空き田んぼを借りて、お米作りに挑戦！御嵩町職員、地域の方、参加者の方とこれからの農業の課題などについて話し合います。



《まちづくり》《環境》

4 7/17（日）アールワークショップルーム 和室

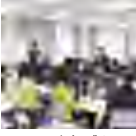
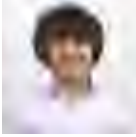
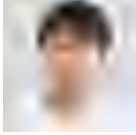
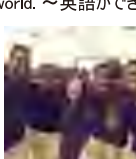
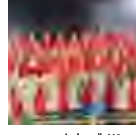
それぞれの社会問題を見出すNGO・NPO作りのワークショップ

キャリアサポート Re-CH

地域で抱える問題をファシリテーターと共に見出し、どう解決につなげるかを考えます。NGOやNPO団体の立上げを体感しよう！



《まちづくり》

5 7/17（日） アーラ ワークショップルーム 和室 高校生から始めるキャリアデザイン講座 キャリアサポート Re-CH 大学進学など人生の選択を自分らしくデザインしているように、ワークショップ形式で自分自身のキャリアデザインを体験しよう！  《キャリア》	岐阜県立可児高等学校 平成28年度 主権者教育推進事業 報告書 6 7/17（日） 岐阜大学サテライトキャンパス 大ホール みんなでワイワイガヤガヤ学び合おう ～保健・医療・福祉について～ 縁塾 医療専門職、医学生、行政の方から話を聞くことができるチャンス！医療系の進路を考える方は是非参加して下さい。  《医療・福祉》	7 7/18（月） 静岡県牧之原市 主権者教育先進地 牧之原市視察 可児高校  《地方自治》 行政や市民と一緒に政策をつくりあげていく先進地・牧之原市を訪問します。	8 7/18（月） ファミリーカーショップ 2F 会議室 働くってどういうこと？ (株)ファミリーカーショップ 吉田 正 業界トップクラスを目指している車屋です。日本トップになる為にはどんな力が必要なのか？その力は世の中にどう影響を与えるか？  《キャリア》
9 7/19（火） スマイルネスト今渡保育園 小規模保育園で保育体験 スマイルネスト今渡保育園 子ども・子育て支援新制度のもと開園した小さな保育園で子どもの笑顔に触れてみよう！  《子ども》	10 7/19（火） ファミリーカーショップ2F 会議室 可能性を無限に拓く生き方 (株) 富信 各務正敏 ネジや自動車に使われるパーツを造り、モノづくりを支える富信。その社長たちものづくりの話を将来の仕事について語ろう！  《キャリア》	11 7/19（火） ハトブキ山カフェ 人生でやりたいこと100のリスト～やりたいことをみつめてみませんか？～ 美濃大茂市職員 土屋友宏 あなたの夢を見つけるサポートをします！私と一緒にあなたのやりたいこと、これからの夢を見つけてみませんか？  《キャリア》	12 7/20（水） アーラ ワークショップルーム B 人口減少を考える ～可児市人口ビジョンを踏まえて～ NPO法人可児市 NPO協会（子育て支援ネット） ～おしゃべりカフェテーマ「人口減少社会をどう生きる？」～人口減少により「地域はどうか変わるのか」「どう生きていきたいか」話し合ってみよう。  《まちづくり》
13 7/20（水） アーラ ワークショップルーム A ごみの問題について考えてみよう (株) 橋本 矢橋裕一 ペットボトルを題材に、環境問題を生活・技術・お金などの切り口で考え、議論し、ペットボトルはどうあるべきかを考えましょう！  《環境》	14 7/20（水） アーラ ワークショップルーム A 自分自身の価値に気付こう！ 杉浦誠司 文字職人という仕事をしている私の経験談を元に、皆さんがそれぞれ持っている自分の価値に気づいてもらおうと思います！  《おもしろい人》	15 7/20（水） アーラ レセプションホール 高齢者ワークショップ～ココロとカラダ健康ひろば～ アーラ 高齢者のワークショップに参加し、参加者と交流しながら、身体表現や演劇が人の心や体にどう影響するか体験してみよう！  《医療・福祉》	16 7/20（水） 総合会館大ホール 可児市議会地域課題懇談会 可児市議会 可児商工会議所 「人材育成と人材確保」をテーマに多様な職種の大人とのグループディスカッションをします。今後の進路選択に役立ててください。  《地方自治》 《まちづくり》
17 7/21（木） 可児かまど本店 必要とされる人になるには？ (有) 一心 近藤あけみ 一心は可児市で「かまど」「赤から」を3店舗展開する元気な居酒屋です。コミュニケーション能力を高めるコツというテーマでお話します。  《キャリア》	18 7/21（木） 十六銀行西可児支店 お金と上手に付き合っていくために (株) 十六銀行 村上寛寛 銀行の役割、お金の流れに始まり、皆さんがライフステージの中でどう銀行に関わっていけばいいのかなどをお話しようと思います。  《金融》	19 7/21（木） 可児市役所 可児市役所 presents 行政クロスロードゲーム 財政課行政推進係 吉田悠太・前田浩介 若手職員VS可児高生！市役所の若手職員と一緒にゲーム感覚で「思考・決断・表現」を磨いてみませんか？  《地方自治》	20 7/22（金） 広見保育園 幼児期体験ツアー ひろみ保育園 大雅峰宏 ＋現場保育士 幼児の遊びや読み聞かせを体感して、改めて自分と向き合う時間をよう！そこから人生設計のヒントが見つかるはず！  《子ども》
21 7/22（金） アーラ ワークショップルーム 可児市観光グランドデザイン 可児市観光協会 会長 呉本勝男 可児市の歴史文化や魅力を再確認して、市外、県外、国外に発信出来るようになりましょう！求む！日本全国に向けた観光PRアイデアを！  《まちづくり》	22 7/22（金） アーラ 研修室 偶然を意図的に生み出す生き方 佐藤淳（青森中央学院大学 早稲田大学マニフェスト研究所） 東京で銀行員になった私かなぜ地元青森で大学の先生をやっているのか？積極的に行動し偶発的な出来事を意図的に生み出す方法について考えます。  《キャリア》	23 7/23（土） ファミリーカーショップ 2F 会議室 医療専門職ができる新たな可能性 合同会社 Think Body Japan 片桐辰徳 病院の中にだけいる医療専門職の従来のイメージを壊す新たな視点を提供します。  《医療・福祉》	24 25 7/23（土） 広見商工会館 可児夏祭りってどうやってできてるの①・② 可児夏まつり2016 実行委員会 可児夏まつり実行委員会と共に夏まつりのイベントを企画から準備まで体験しよう。  《まちづくり》
26 7/24（日） 市内公民館等 ママさん議会ワークショップ 可児市議会 将来子育て世代となる高校生の皆さん！ママさんと一緒に「子育てしやすいまちづくり」について考えよう！  《地方自治》 《まちづくり》	27 7/31（日） 鎌成館ミーティングルーム Learn English and see the world. ～英語ができる可能性は100倍に～ 可児市役所職員 齊藤裕未 英語が話せるっただけで、物の見方、考え方が広がります。そして可能性も100倍！どうしたらペラペラに？  《外国語》 《キャリア》	28 8/8（月） 美容室 Beluga 仕事と作業 美容室 Beluga オーナー 田口豊和 髪型のセットのその日の仕上がりで満足して頂くだけではなく、新しい髪型で始まるワクワク充実した生活を手に入れて幸せになって頂くことが私達の仕事です。  《キャリア》	29 8/10（水） L'essence de VENT SOLEIL 弘栄工務店 リノベーションスタジオ 2F 小さなお菓子と大きな笑顔 藤乃屋 店主 後藤隆宏 小さなお菓子でいかに人を感動させられるか？「モノ」を作る仕事の醍醐味とは何でしょうか？  《キャリア》
30 8/11（木） アーラ レセプションホール 大学生 DAY 可児高校OB 現役大学生 数年前まで可児高生だった先輩達が、今どんなことを考え大学生活を送っているのか、気になる人大集合！  《キャリア》	31 8/11（木） 可児高校 岐阜大学理系の講義を受けてみませんか？ 岐阜大学 地域協学センター 岐阜大学次世代地域リーダー育成プログラムに参加する二人の理系大学生の『講義』を受けてみませんか？  《キャリア》	32 8/13（土） 可児市立図書館 3 F 会議室 絵本の読み聞かせワークショップ 絵本の読み聞かせボランティア 安藤龍子 図書館で絵本の読み聞かせワーク「かにっ子タイム」を30年間継続して得た読み聞かせの極意を学ぼう。  《子ども》 《教育》	33 8/20（土） アーラ 映像シアター 映画「みんなの学校」上映会 縁塾 アーラ 不登校ゼロを目指した大阪の小学校の取り組みを、追いつけたドキュメント映画の鑑賞し、他の方々の感想を聞きながら、理想の学校、地域を考えよう！  《教育》
34 7/21（木）・22（金） 各キッズクラブ（今渡北小、今渡南小、土田小） キッズクラブ 可児市役所こども課 ほんの数年前、君も小学生だった・・・。当時を思い出しながら元気いっぱいの子供たちと夏休みの思い出を作ろう！  《教育》 《ボランティア》	35 7/23（土）・30（土） フレビア 子どもの日本語支援「きぼう教室」の夏休み集中学習支援 NPO法人可児市国際交流協会 外国につながる子どもたちの集中学習のお手伝い！ドリルなどを使い、分からない教科や日本語を勉強します！  《多文化共生》 《教育》 《ボランティア》	36 37 8/13（土）・14（日） 可児市総合会館 可児夏祭りの裏方を知ろう①・② 可児夏まつり2016 実行委員会 祭りの裏ではどんな思いで、どんなことが？お化け屋敷の運営を体験しながら地域行事を学ぼう！  《まちづくり》	

夏の！OPEN エンリッチに行く前に

学校の外に出て行う活動です。そのため、何かあったときは地域の方に連絡することになります。

責任者連絡先 縁塾 松尾 和樹 さん 090-****-****

1. 参加の心構え

- ・自分の進路実現のためであり、同時に地域の方たちの協力がなければできないことであることを十分理解したうえで、**積極的に参加**をすること。
- ・可児高生として品位ある行動をすること。

遅刻・欠席をしない 体調管理は万全に！

大きな声で積極的に**挨拶** 言葉遣い

服装は**制服（指定のあるところは体操服）**、土日であろうとも

普段と同じように、道中の**交通安全**に気を付けること

- ・何かあったときに対応できるよう、あらかじめ様々な想定をしておくこと

持ち物：
筆記用具・
指定のあるところは体
操服・水筒など

会場の場所は？
会場へのルートは？
所要時間は？
事前に調べておこう

2. 欠席連絡

- ①**前日**までにやむをえず欠席することが分かった場合

縁塾 松尾さん（090-■■■■-■■■■）に**学年・氏名・参加するプログラム名**を言い、欠席する旨を伝える。

- ②当日急な欠席、遅刻、道中の事故など**緊急性の高い場合**

参加受け入れ先に直接連絡（裏面参照）

学年・氏名・今の状況を説明する。遅刻の場合はいつ頃到着できるかも連絡。



3. 警報発令時の対応

特に台風が近づいている場合は、次のように行動します。

- ①**開催地に**警報が出ていたらプログラムは中止。開催されるかどうかは縁塾のウェブサイトで連絡される。
台風が近づいているとき、**プログラム開始の3時間前までには発表**されるので注意しておくこと。

ハトブキ山カフェ 縁塾のページ https://hmcafe.shopinfo.jp/pages/534482/page_201606300829

→サイトを見る手段がなく、心配な人は縁塾 松尾さんに直接電話をしてください。

- ②プログラム開催中に警報が出た場合は、保護者に迎えに来てもらう（それまで待機）。
- ③台風が来る前・過ぎた後でも、安全が確保できない状態にあるときは、無理をせず受け入れ先に連絡すること。

4. 連絡先の交換について

プログラムに参加した後、継続的に地域の活動に参加したいと考える場合、地域の方との連絡先の交換は次の手順で行います。

- ①あらかじめ、保護者と連絡先を交換することについて相談をしておくこと。
- ②プログラムに参加した時点では、原則連絡先の交換はしない。
- ③関わりたいと思った生徒は、帰宅後に保護者の承諾を受けた後、こちらから先方に連絡をとる。



縁塾のサイト
(PC・スマホのみ)
お知らせはここで

イントロダクションシート

(会のはじめに高校生に伝えていただくこと)

■Outcome : 今日の目的

「夏のオープンエンリッチ」は、高校生が地域の多様な人と出会い、自分の生き方や進路、働き方など、今後をより深く考えるためのキッカケをつくることを目的に企画されています。学校と地域をつなぐ団体である「NPO 縁塾」がコーディネートしています。去年からスタートして、今年で2年目(2回目)になりますが、今年もみんなの今後の豊かな進路選択や、将来の生き方・働き方に繋がる場になるといいなあと思っています。

また、みんなにもっと自分たちが住む地域や社会のことを知って欲しい、目を向けて欲しいという想いもあります。普段は学校とか塾とか、習い事で忙しくて、自分たちの住む地域や社会のことについて考える機会は無いと思うんだけど、この機会に是非視野を広げてみて欲しいな、もっともっと色んな世界を知るキッカケにして欲しいなとも思っています。

■Rule : 参加の心得

この夏のオープンエンリッチはもちろん、授業でも何でもそうですが、あくまで**主役は参加者のみなさん1人ひとり**です！

目的意識を持って、積極的にこの場をつくっていきましょう。何かこの場に対して「こうしたい」等のアイデアがあれば、いつでも言ってください。与えられた場でスピーカーのお話をただ聞いて終わり…ではなく、みんなで一緒に創っていく場にしたいと思います。

あと、今日はそのための参加のルールがあります。

①相手の話に丁寧に耳を傾けること。「聴く」ということを意識する。

…今日はスピーカーの話聞くだけでなく、色々な人と話をしたり、意見を交換したりする場面が多くなります。ぜひ、相手がどういう想いで言葉を選んでいるのか、など意識しながら「聴く」ことを大切にしてほしいです。

②否定しない。

…自分と違う意見だなと思っても、1度受け止めて、考えの違いを楽しむこと。

⇒①②をみんなで守る場にするので、安心して何でも自由に意見を言い合おうね。

■Role : 参加者

今日の参加者は、高校生と大人含めて全体で〇名です。

私がファシリテーターとして、場の進行をさせていただきます。〇〇と申します。

今日は気軽に～と呼んでね。今日は、みんなニックネームで呼び合おうね。

・今日のゲストは～さん。あとでお話をしてもらおうよ。よろしくお願いします！

・みんなの活動風景を写真に収めているのが、～さん

…（その場にいる人全員の紹介を簡単にする）

→このメンバーで場を共にしていきたいと思います！みなさん、よろしくお願いします！

何か困ったことや、不安なことがあればいつでも私に言ってください。

トイレとかも自由に行っていていいです。飲み物・お菓子も自由に食べたり飲んだりして OK なので、緊張しないで終始リラックスしてね。

■Agenda : 今日の大まかな流れ

①アイスブレイクで参加者同士、自己紹介

②ゲストスピーカーの話（30分）

③質問タイム

④グループトーク…テーマについて、みんなでワイワイ意見を出し合います

⑤ふりかえりタイム

終了時間は（ ）時です。

説明が長くなってしまいましたが、みんなで肩の力を抜いて、和気あいあいとやっていきたいと思います。よろしくお願いします^^！

夏の！オープンエンリッチ 2016 <リフレクションシート>

年 組 名前

■参加したプログラム番号【 】

プログラム名【 】(月 日)

(1) 今回のプログラムへの参加を通して、どんなことを学びましたか。3つ以上挙げてください。

「～できるようになった」というように具体的に記入してください。

また、なぜそう思ったのか、理由も合わせて教えてください。

1

【理由】

2

【理由】

3

【理由】

(2) 学んだことをどう活かしていきたいと思ったか、理由を含めて自分の考えを書いてください。

(3) 今回のプログラムの参加を経て、以下の項目について当てはまるものを一つ選び1～4の数字を記入してください。プログラムの改善のために回答結果を用いる場合は、個人の情報や回答内容が特定されない形で活用します。思った通りに回答してください。

【4：そう思う 3：どちらかと言えばそう思う 2：どちらかと言えばそう思わない 1：そう思わない】

プログラムでの経験は、とても充実していた	
地域や社会の課題は、私に関係のあることだと感じた	
地域・社会の一員として、様々な人と関わりながら地域・社会を良くしていきたいと思った	
地域・社会の一員として、その地域・社会の問題を解決する責任が自分にはあると思った	
自分は地域・社会に必要とされている存在だと思った	
地域の人と協働しながら、自分も一緒に地域を良くしていきたいと思った	
自分が学んだことを地域での活動に活かしていきたいと思った	
地域や社会の課題を解決するために、今後自分が力を入れて学びたいことが明確になった	

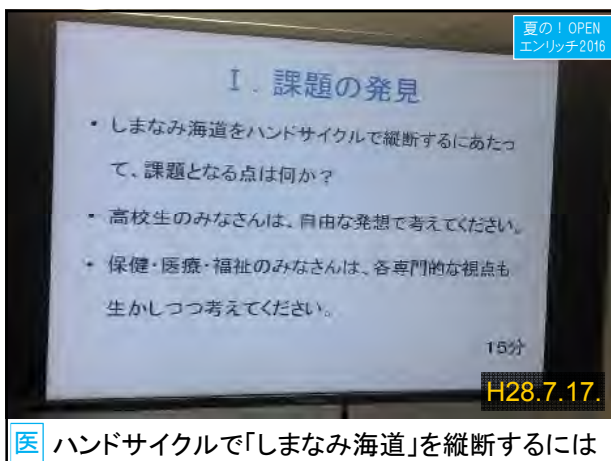




医 主催は「岐阜へき地医療IPE研究会」



医 受傷者本人とハンドサイクル



医 ハンドサイクルで「しまなみ海道」を縦断するには



医 多職種からなる班毎に課題や解決方法を検討



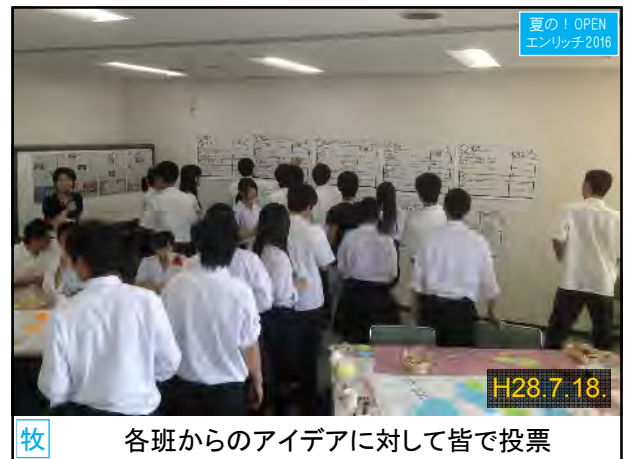
医 最後に 記念撮影



牧 可児高校「リアル模擬選挙」の発表



牧 榛原高生の自然な対話姿勢に感激



牧 各班からのアイデアに対して皆で投票



人口減少を考えよう（可児市NPO協会）



環境問題について考える（矢橋裕一氏）



地域課題懇談会（可児市議会×可児商工会議所）

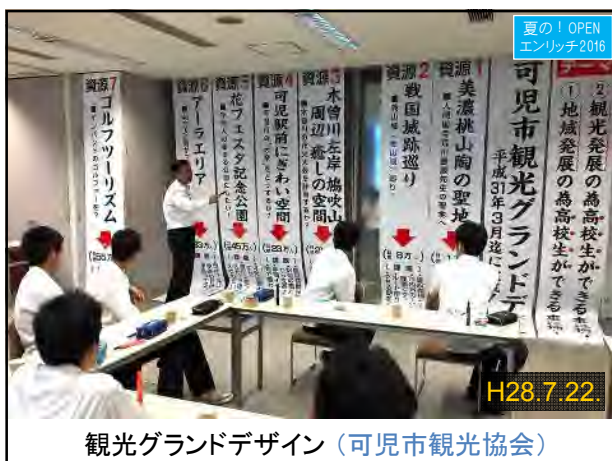


必要とされる人になるには？（かまど女将）



行政クロスロード 問題例（今年）

- 市民税課の窓口にて、税務署（隣市）関係の手続にきた。いま行列ができている。手続のしかたを丁寧に説明する？
- 放置すると悪臭を放つ、分別違反のゴミ。袋に警告の紙を貼って回収しない？それとも回収する？
- 法的には、市職員は整理清掃ができないゴミ屋敷。しないと小学生の子供が大変。整理清掃に踏み切る？



夏の！Openエンリッチ 2016

リフレクションシート 集計結果一覧表

プログラム 番号	学 年	項 目								【平均値】
		プログラムでの経験はとも充実していた	地域や社会の課題は、私に関係のあることだと感じた	地域・社会の一員として、様々な人と関わりながら地域・社会を良くしていきたいと思った	地域・社会の一員として、その地域・社会の問題を解決する責任が自分にはあると思った	自分は地域・社会に必要とされている存在だと思った	地域の人と協働しながら、自分も一緒に地域を良くしていきたいと思った	自分が学んだことを地域での活動に活かしていきたいと思った	地域や社会の課題を解決するために、今後自分が力を入れて学びたいことが明確になった	
1	全	4.00	4.00	3.80	3.80	3.40	4.00	4.00	3.60	3.83
	1年	4.00	4.00	3.75	3.75	3.25	4.00	4.00	3.50	3.78
2	全	4.00	3.67	3.00	3.33	3.00	3.00	3.67	2.67	3.29
	1年	4.00	4.00	3.00	4.00	3.50	3.50	4.00	3.00	3.63
3	全	4.00	3.33	3.67	3.44	3.11	3.67	3.67	3.00	3.49
	1年	4.00	3.33	3.67	3.44	3.11	3.67	3.67	3.00	3.49
6	全	3.93	3.67	3.67	3.59	3.20	3.69	3.67	3.48	3.61
	1年	3.93	3.67	3.67	3.60	3.20	3.53	3.60	3.27	3.56
7	全	4.00	3.73	3.73	3.73	3.18	3.91	3.82	3.27	3.67
	1年	4.00	3.63	3.63	3.63	3.13	3.88	3.75	3.25	3.61
8	全	4.00	3.40	3.40	3.40	3.00	3.40	3.60	3.80	3.50
	1年	4.00	3.25	3.25	3.25	2.75	3.25	3.50	3.75	3.38
9	全	4.00	4.00	4.00	3.75	3.75	4.00	3.75	3.50	3.84
	1年	4.00	4.00	4.00	3.50	3.50	4.00	3.50	3.00	3.69
10	全	4.00	3.40	3.64	2.90	3.10	3.45	3.64	3.55	3.46
	1年	4.00	3.40	3.64	2.90	3.10	3.45	3.64	3.55	3.46
11	全	4.00	3.47	3.60	3.33	3.13	3.73	3.53	3.13	3.49
	1年	4.00	3.47	3.60	3.33	3.13	3.73	3.53	3.13	3.49
12	全	3.86	3.86	3.71	3.57	3.29	3.29	3.71	3.29	3.57
	1年	3.86	3.86	3.71	3.57	3.29	3.29	3.71	3.29	3.57
13	全	3.82	3.73	3.55	3.55	2.82	3.55	3.82	3.00	3.48
	1年	4.00	3.75	3.75	3.50	3.00	3.75	4.00	3.25	3.63
14	全	4.00	2.60	3.40	2.60	2.40	2.60	2.83	3.20	2.95
	1年	4.00	2.60	3.40	2.60	2.40	2.60	2.83	3.20	2.95
16	全	3.00	3.50	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.69
	1年	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	3.75
17	全	4.00	4.00	4.00	3.83	3.67	4.00	4.00	3.83	3.92
	1年	4.00	4.00	4.00	3.83	3.67	4.00	4.00	3.83	3.92
18	全	4.00	3.57	3.86	3.57	3.14	3.71	4.00	3.29	3.64
	1年	4.00	3.57	3.86	3.57	3.14	3.71	4.00	3.29	3.64
19	全	3.67	3.53	3.50	3.22	2.94	3.61	3.61	3.11	3.40
	1年	3.67	3.50	3.53	3.20	2.87	3.53	3.60	3.20	3.39
20	全	4.00	3.56	3.67	3.56	3.44	4.00	3.78	3.67	3.71
	1年	4.00	3.57	3.71	3.57	3.43	4.00	3.71	3.57	3.70

夏の！Openエンリッチ 2016

リフレクションシート 集計結果一覧表

プログラム 番号	学 年	項 目								【平均値】
		プログラムでの経験はとも充実していた	地域や社会の課題は、私に関係のあることだと感じた	地域・社会の一員として、様々な人と関わりながら地域・社会を良くしていきたいと思った	地域・社会の一員として、その地域・社会の問題を解決する責任が自分にはあると思った	自分は地域・社会に必要とされている存在だと思った	地域の人と協働しながら、自分も一緒に地域を良くしていきたいと思った	自分が学んだことを地域での活動に活かしていきたいと思った	地域や社会の課題を解決するために、今後自分が力を入れて学びたいことが明確になった	
21	全	3.86	3.57	3.29	3.29	3.14	3.43	3.43	3.00	3.38
	1年	3.86	3.57	3.29	3.29	3.14	3.43	3.43	3.00	3.38
22	全	4.00	3.50	3.67	3.50	3.33	3.67	4.00	3.50	3.65
	1年	4.00	3.50	3.67	3.50	3.33	3.67	4.00	3.50	3.65
23	全	3.67	3.33	3.44	3.11	3.11	3.33	3.33	3.11	3.31
	1年	3.67	3.17	3.33	2.83	3.00	3.33	3.33	3.17	3.23
24	全	4.00	3.93	3.79	3.57	3.29	3.93	3.57	3.21	3.66
	1年	4.00	3.91	3.82	3.64	3.27	4.00	3.64	3.18	3.68
25	全	3.92	3.25	3.58	3.25	3.08	3.75	3.50	2.83	3.40
	1年	3.92	3.25	3.58	3.25	3.08	3.75	3.50	2.83	3.40
26	全	3.67	3.33	3.67	3.33	3.00	3.67	3.33	3.00	3.38
	1年	3.50	3.00	3.50	3.00	2.50	3.50	3.00	2.50	3.06
27	全	4.00	3.18	3.59	3.14	3.18	3.59	3.64	3.55	3.48
	1年	4.00	3.16	3.53	3.11	3.16	3.53	3.58	3.53	3.45
28	全	4.00	2.00	2.25	2.25	2.00	2.25	2.00	2.25	2.38
	1年	4.00	2.00	2.25	2.25	2.00	2.25	2.00	2.25	2.38
29	全	4.00	3.55	3.82	3.18	3.00	3.91	3.91	3.18	3.57
	1年	4.00	3.56	3.89	3.11	2.89	3.89	3.89	3.11	3.54
30	全	4.00	3.30	3.60	3.30	3.20	3.50	3.50	3.40	3.48
	1年	4.00	3.30	3.60	3.30	3.20	3.50	3.50	3.40	3.48
31	全	3.93	3.20	3.53	3.20	2.67	3.53	3.47	2.87	3.30
	1年	3.93	3.20	3.53	3.20	2.67	3.53	3.47	2.87	3.30
32	全	3.81	3.37	3.52	3.30	3.22	3.70	3.52	3.15	3.45
	1年	3.80	3.36	3.52	3.28	3.20	3.72	3.52	3.16	3.45
34	全	3.84	3.47	3.68	3.42	3.05	3.58	3.63	3.11	3.47
	1年	3.81	3.44	3.69	3.31	3.06	3.50	3.63	3.13	3.45
35	全	3.86	3.71	3.57	3.57	3.43	3.57	3.71	3.57	3.63
	1年	4.00	3.50	3.50	4.00	3.50	3.50	3.50	3.50	3.63
36	全	3.72	3.28	3.44	3.17	3.11	3.78	3.44	3.22	3.40
	1年	3.69	3.31	3.44	3.13	3.13	3.75	3.44	3.25	3.39
37	全	3.89	3.78	3.89	3.67	3.44	3.83	3.83	3.67	3.75
	1年	3.67	3.33	3.67	3.00	2.67	3.50	3.67	3.00	3.31
平均値		3.89	3.47	3.58	3.36	3.12	3.59	3.59	3.22	

37期生

夏の! OPENエンリッチ・プロジェクト

「地域をよくしようと努めている大人や、想いをもって大学生活を送っている先輩と関わり、視野を広げ、社会とのつながりを感じ、意欲を高め、進路を展望する一助にしてほしい…」という期待のもと、地元の様々な機関や団体、本校卒業生、NPO緑塾…等々の皆様のご尽力により始まった「夏の!OPENエンリッチ」。今夏も、地域の課題について話しあったり、地域のために貢献したり等、計37のプログラムが用意され、1年生全員と2~3年生の希望者、のべ385名が参加しました。

2年目を迎えた今夏は、運営する側に経験やノウハウが蓄積されていたことや、一部では2~3年生が企画や運営に加わったことにより、余裕をもって1年生を迎えることができた点に特徴があります。今夏の経験を通して、将来にむけて勉学に励む意味を理解し、毎日の学校生活を今まで以上に充実させる生徒が増えること、そして、地域との関わりを深め、自身の進路を地域の将来と重ねて探る生徒が増えることを期待しています。(浦崎)



生徒の感想から(抜粋)

■「幸せは共有するもの」という言葉を聞いて、自分が周りの人を幸せにできるようにしたいという思いを強く持つことができました。今までとは違った考え方で、新しい発見がたくさんできると思ったので、どんどん新しい物事に挑戦していきたいです。

▶(自分の人生を自分らしく生きよう!)

■今回の活動を通して介護士にもいろんな種類があるということを知ったので、もっとなりたい職業がどんなことをやるか調べべきだと改めて思いました。グループで話し合った時、大人の人にも「あ〜、なるほど」と言ってもらえたので、とても嬉しかったです。いろんな人と交流することも大切なことなんだと思いました。またこういう機会があったら参加したいと思いました。

▶(みんなでワイワイガヤガヤ学び合おう〜保健・医療・福祉について〜)



防災まち歩き 2016夏(可児市防災の会)



人口減少を考えよう(可児市NPO協会)

■最初、初対面の人と話すときは緊張していたけれど、始まったらグループの人と楽しく交流ができました。グループの人(榛原高校の生徒)は、自分の将来について計画を立てていたの、自分もやりたいことを早く見つけたいと思いました。また、牧之原の政治についてすごく真剣に考えていて、自分も市の政治について考えていきたいと思ったし、選挙権をもったら自分の中でしっかりと考えて投票をしたいなと思いました。

▶(主権者教育の先進地・牧之原市の視察)

■可児市は待機児童が多いということで、保育園が多く求められていることを初めて知って、可児に住んでいても知らないことがたくさんあるんだと感じました。私は保育園の先生になることを目指しているの、可児市のために働ける人になりたいって思ったし、求められる人になりたいなって思いました。初めて会う子ばかりだけど、話したり接したりすることで通じ合えるものがあるんだって思ったし、自分が笑ったら園児のみんなが一緒に笑ってくれるのが何よりうれしかったです。

▶(小規模保育園で保育体験)

■人に教えるという機会はなかなかないので、最初は本当に教えてあげられるのかとても不安でした。しかし、始まるとがんばって教えてあげたいなと思い、言いたいことが伝わらなければ言い方を変えたりして、なんとか伝えることができました。また、私が説明していることをとても熱心に聞いてくれて、わからないことがあるとたくさん質問してくれたので、とてもうれしかったです。皆が真剣に勉強に取り組んでいる姿・苦手に向き合いががんばっている姿を見て、私もがんばろうという気持ちになりました。人に教えることはとても難しかったですが、自分の力にもなるし、楽しかったので機会があればまたやりたいなと思いました。

▶(子どもの日本語支援「きぼう教室」の夏休み集中学習支援)



行政クロスロード(可児市役所)

6 将来に関することについてお尋ねします。もっとも近い番号に○をつけてください。

		まったくあてはまらない	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	とてもあてはまる
1	高校で学ぶことは、自分の将来にあまり関係ないと思う	1	2	3	4	5	6
2	将来のことを考えても何にもならないと思う	1	2	3	4	5	6
3	私は、できるだけ多くの経験を積み重ねて将来につなげたいと思う	1	2	3	4	5	6
4	私は将来の夢や目標に向かって高校で学んでいる	1	2	3	4	5	6
5	私は将来の夢や目標に向けて準備していることがある	1	2	3	4	5	6
6	これまで自分が行ってきたことと自分の将来について新しい関連づけを試みる	1	2	3	4	5	6
7	私は毎日目標を立てて行動をするようにしている	1	2	3	4	5	6
8	これまでの自分についてじっくり考える	1	2	3	4	5	6
9	日々の過ごし方がどうであっても、将来にはあまり関係ないと思う	1	2	3	4	5	6
10	自分の将来について改めて考え直す	1	2	3	4	5	6
11	私は予定を立てて一日を過ごすようにしている	1	2	3	4	5	6
12	自分という人間についてよく考えてみる	1	2	3	4	5	6
13	私は将来を意識しながら日常を過ごしている	1	2	3	4	5	6
14	私は将来のために頑張っていることがある	1	2	3	4	5	6
15	自分がこれまでやって来たことが自分の将来とどの様に結びつくか考える	1	2	3	4	5	6
16	地域の人々と協働することで、地域を改善することができると思う	1	2	3	4	5	6
17	私が積極的に地域に働きかけることで、その地域のあり方を少しでも変えることができると思う	1	2	3	4	5	6
18	地域の一員として、その地域の問題を解決する責任が自分にはあると思う	1	2	3	4	5	6
19	人々が積極的に政治に関われば、政治のあり方は変わると思う	1	2	3	4	5	6
20	国のあり方を変える上で重要なのは、有権者一人一人の行動だと思う	1	2	3	4	5	6

7

過去1、2年を振り返って、次の事柄はあなたのなかで伸びていると思いますか、それとも伸びていないと思いますか。
もっとも近い番号に○をつけてください。

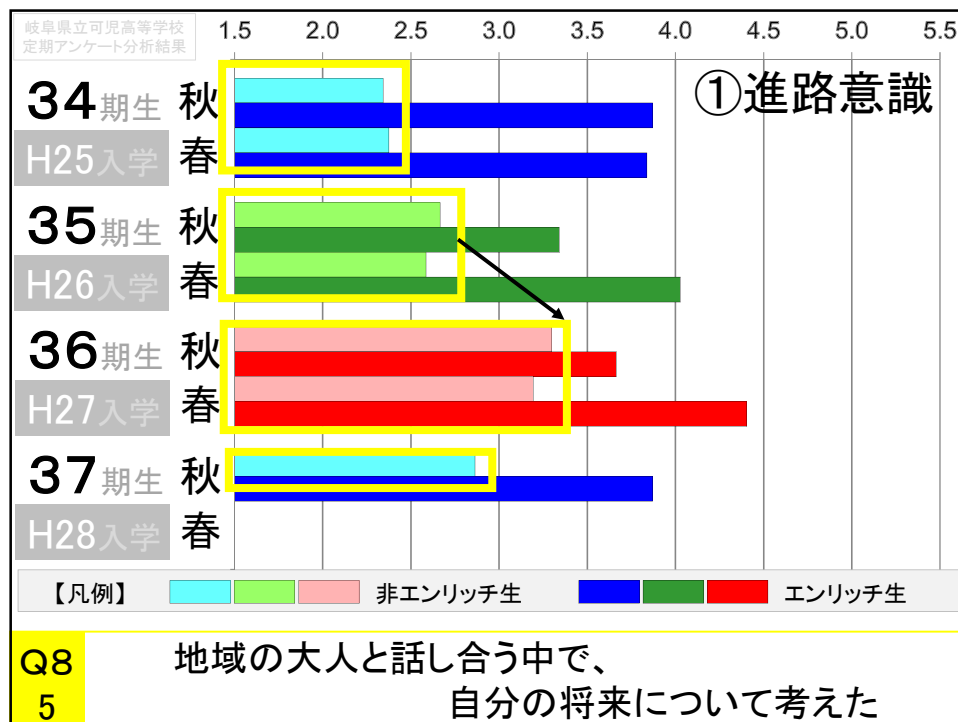
		伸びていない	あまり伸びていない	どちらともいえない	まあまあ伸びた	伸びた
1	計画や目標を立てて日々を過ごすことができる	1	2	3	4	5
2	社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる	1	2	3	4	5
3	リーダーシップをとることができる	1	2	3	4	5
4	図書館やインターネットを利用して必要な情報を得たり、わからないことを調べたりすることができる	1	2	3	4	5
5	他の人と議論することができる	1	2	3	4	5
6	自分の言葉で文章を書くことができる	1	2	3	4	5
7	人前で発表をすることができる	1	2	3	4	5
8	他の人と協力してもの事に取り組める	1	2	3	4	5
9	コンピュータやインターネットを操作することができる	1	2	3	4	5
10	時間を有効に使うことができる	1	2	3	4	5
11	新しいアイデアを得たり発見することができる	1	2	3	4	5
12	困難なことでもチャレンジすることができる	1	2	3	4	5
13	人の話を聞くことができる	1	2	3	4	5
14	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	1	2	3	4	5
15	人に対して思いやりを持つことができる	1	2	3	4	5
16	忍耐強くもの事に取り組むことができる	1	2	3	4	5
17	異文化や世界に関心を持つことができる	1	2	3	4	5
18	自分を客観的に理解することができる	1	2	3	4	5
19	自ら学ぶ姿勢	1	2	3	4	5
20	自分が関わる地域に貢献したい気持ち	1	2	3	4	5
21	課題を解決する力	1	2	3	4	5
22	課題を発見する力	1	2	3	4	5
23	答えの無い課題に挑戦していく力	1	2	3	4	5
24	自分で学ぶ意味を見いだそうとしていく姿勢	1	2	3	4	5
25	他者とかがかわる中で学びを深めていく姿勢	1	2	3	4	5

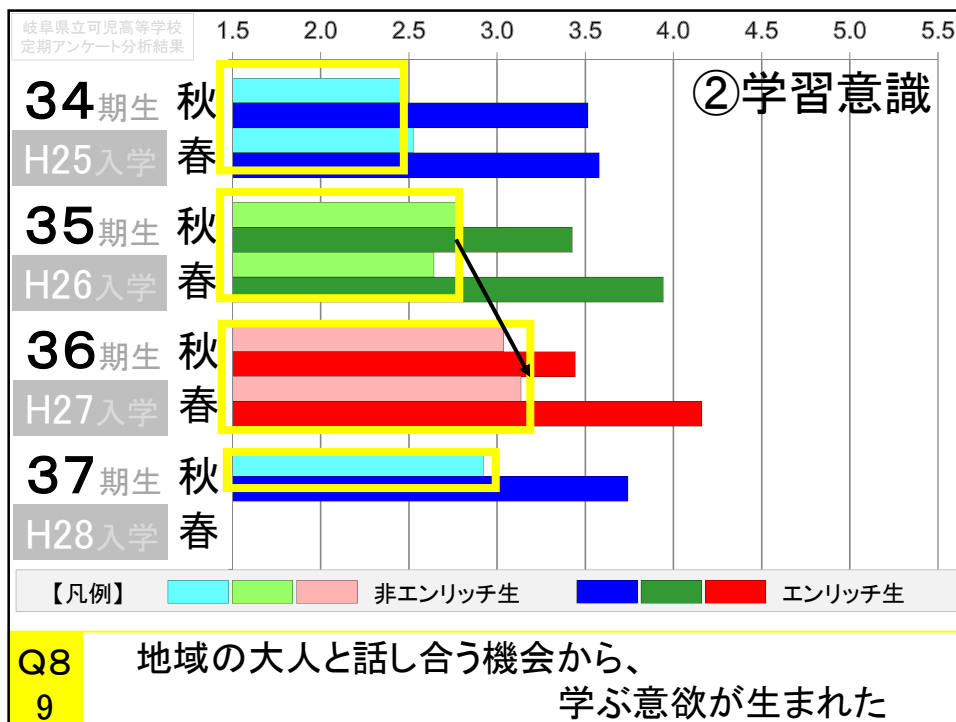
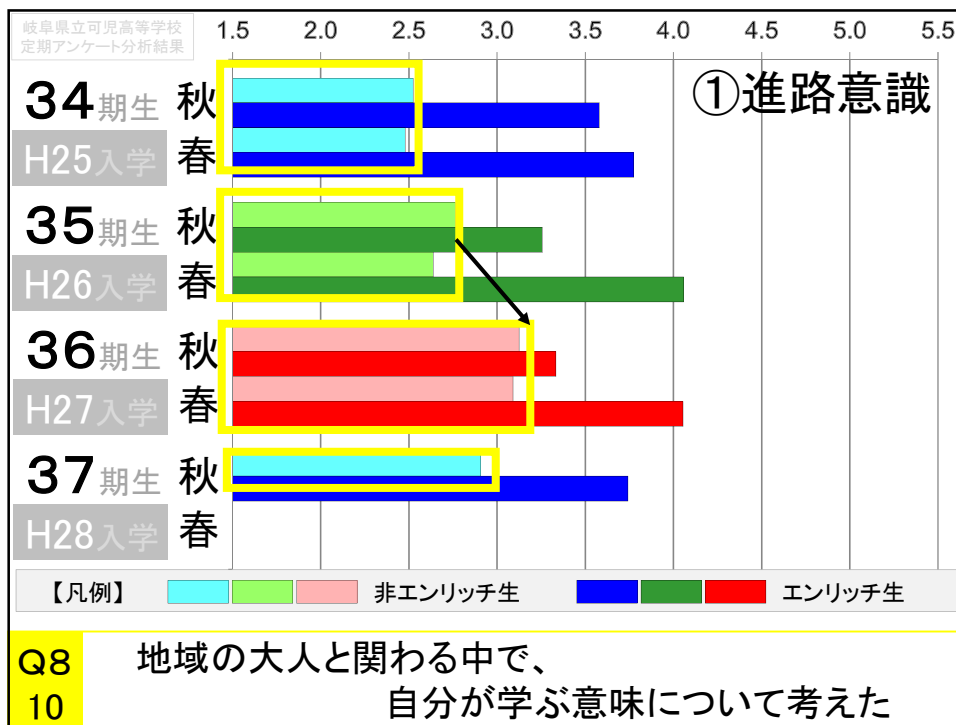
8 以下の項目を読んで、自分の状態にもっとも近い番号に○をつけてください。

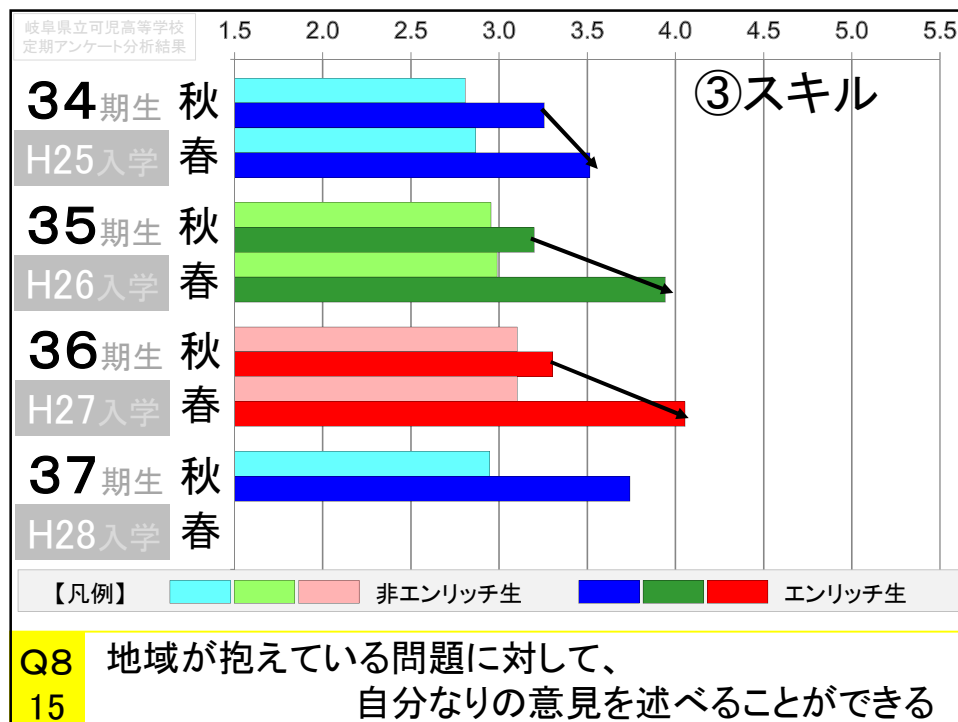
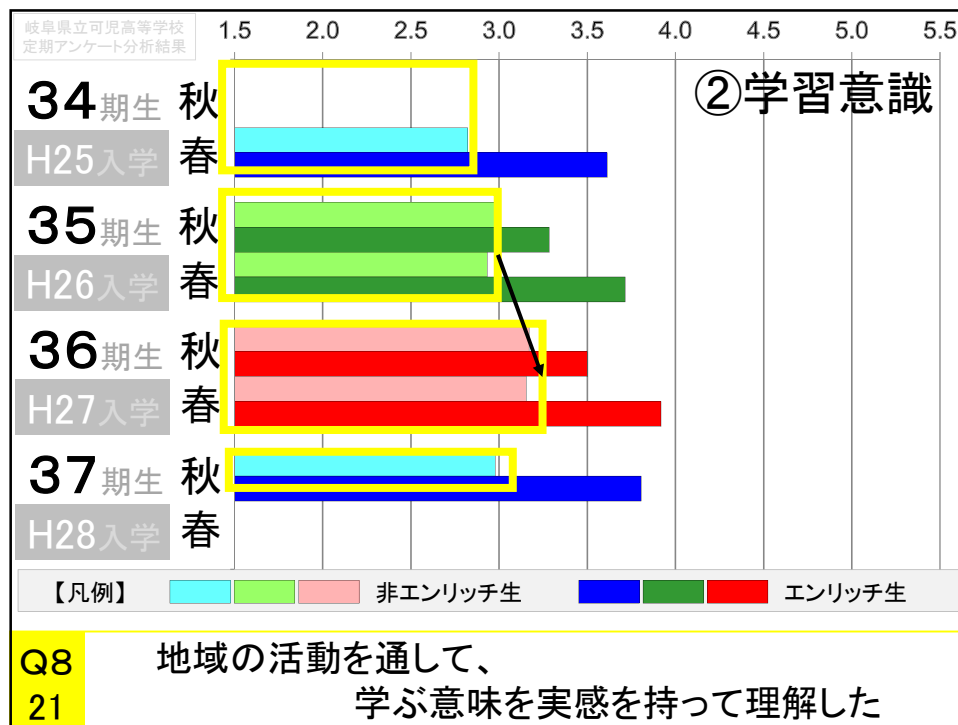
		まったくあてはまらない	あてはまらない	どちらかというあてはまらない	どちらかというあてはまる	あてはまる	とてもあてはまる
1	地域の大人と一緒に活動に取り組む機会があった	1	2	3	4	5	6
2	地域の大人と話し合う機会があった	1	2	3	4	5	6
3	地域の問題について話し合う機会があった	1	2	3	4	5	6
4	ボランティア活動をふりかえて考える機会があった	1	2	3	4	5	6
5	地域の大人と話し合う中で、自分の将来について考えた	1	2	3	4	5	6
6	地域の大人と話し合う中で、自分の普段の生活について考えた	1	2	3	4	5	6
7	ボランティア活動の経験から、自分の将来について考えた	1	2	3	4	5	6
8	ボランティア活動の経験から、自分の普段の生活について考えた	1	2	3	4	5	6
9	地域の大人と話し合う機会から、学ぶ意欲が生まれた	1	2	3	4	5	6
10	地域の大人と関わる中で、自分が学ぶ意味について考えた	1	2	3	4	5	6
11	ボランティア活動の経験から、学ぶ意欲が生まれた	1	2	3	4	5	6
12	ボランティア活動の経験から、自分が学ぶ意味について考えた	1	2	3	4	5	6
13	私には、地域の問題の解決に貢献する力はないと感じる	1	2	3	4	5	6
14	地域でのできごとは、私にはあまり関係のないことだと感じる	1	2	3	4	5	6
15	地域が抱えている問題に対して、自分なりの意見を述べることができる	1	2	3	4	5	6
16	社会的問題の解決は、その国の政治家に任せておけばよいと思う	1	2	3	4	5	6
17	社会で生じている問題に関心を持つことは、すべての人にとって重大な責任だと思う	1	2	3	4	5	6
18	同年代の人と比べて、自分の社会的な問題に関する知識は豊富だと思う	1	2	3	4	5	6
19	政治というものは、個人の力ではどうすることもできないものだと感じる	1	2	3	4	5	6
20	地域の活動に参加する中で、高校で学ぶ意義について深く理解した	1	2	3	4	5	6
21	地域の活動を通して、学ぶ意味を実感を持って理解した	1	2	3	4	5	6
22	地域の活動を通じて、答えの無い課題でも挑戦していける自信がついた	1	2	3	4	5	6
23	地域の活動を通じて、自分で考えて臨機応変に行動できるようになった	1	2	3	4	5	6
24	地域の活動に参加したことで、大人と積極的に関わっていこうと思うようになった	1	2	3	4	5	6
↓ 25 は 1年生のみ回答してください (…H28年9月実施分のみ)							
25	自分が関心を寄せている分野の人達や、夏のOPENエンリッチ等を通して魅力を感じた人達と、地元で一緒に学んだり活動したりする機会があれば、今後、無理のない範囲で参加していきたい。	1	2	3	4	5	6

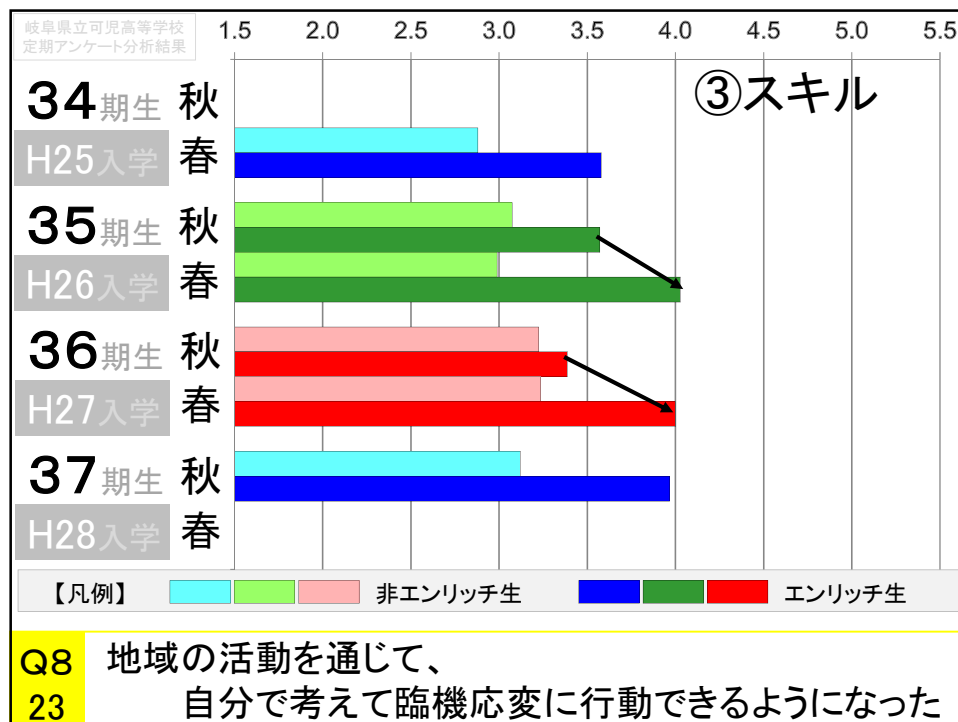
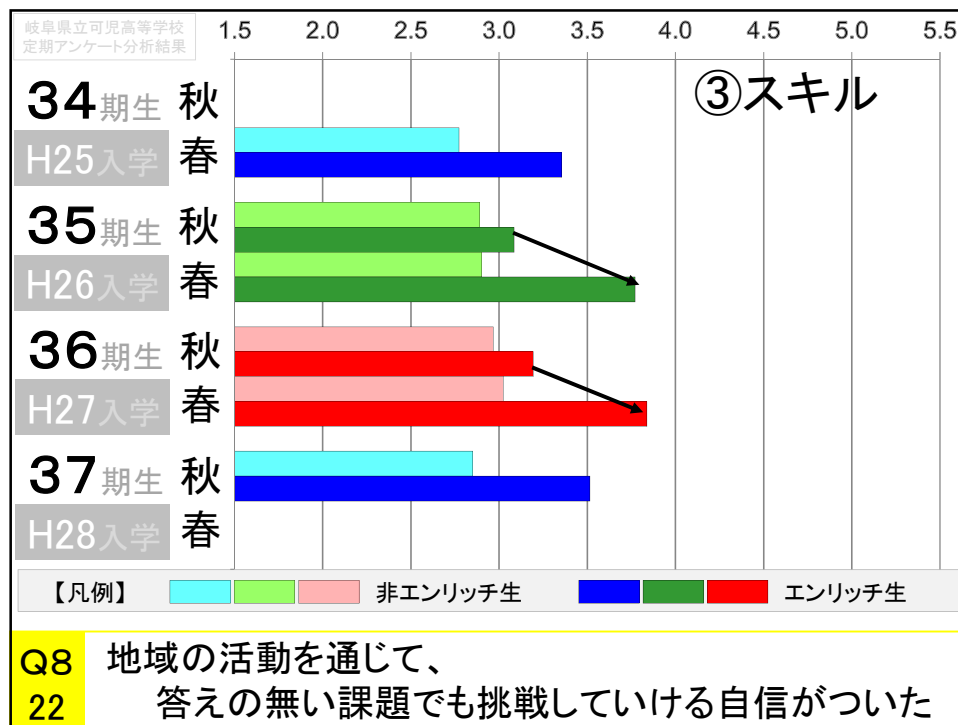
エンリッチに期待する効果

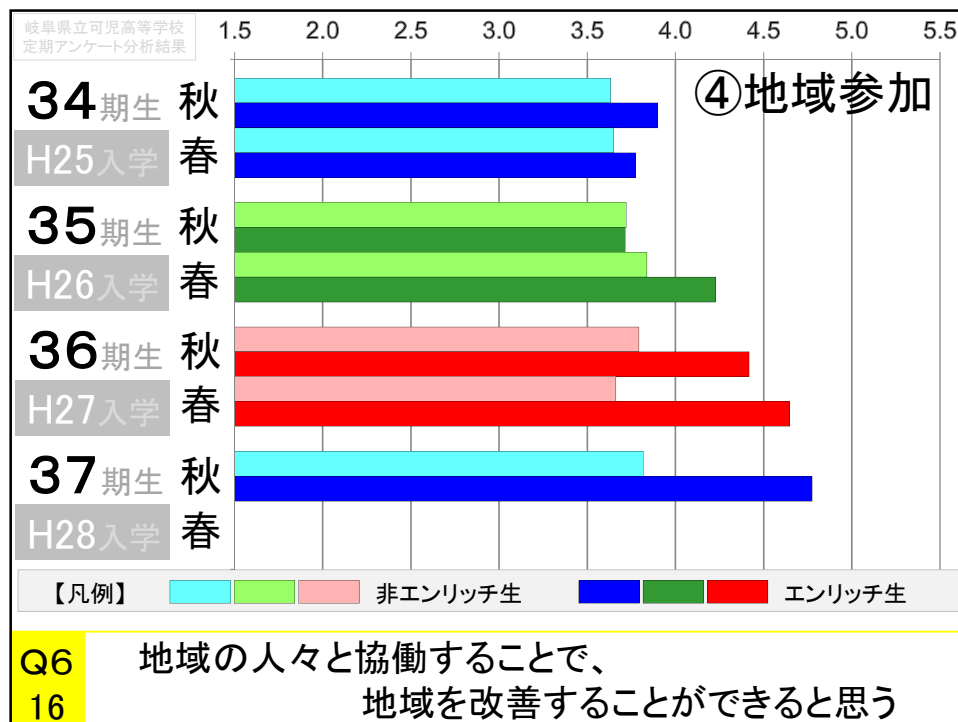
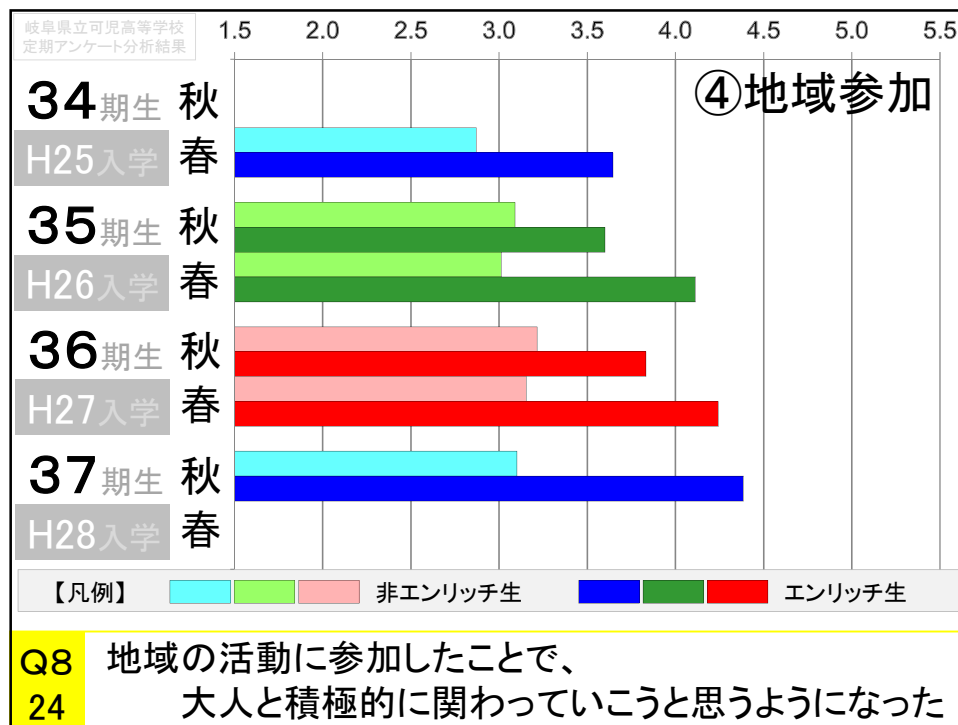
- ① **進路**に対する意識
 - ・・・職業や大学選択の視野を広げる
- ② **学習**意識
 - ・・・①をもって普段の生活を見直す機会になる
- ③問題解決のための**スキル**
 - ・・・発表・話し合い・企画実行力などの習得
- ④**地域**への意識
 - ・・・地域活動への参加・地域社会への貢献意識
- ⑤**政治参加**への意識
 - ・・・④から発展させて政治参加する人材へ

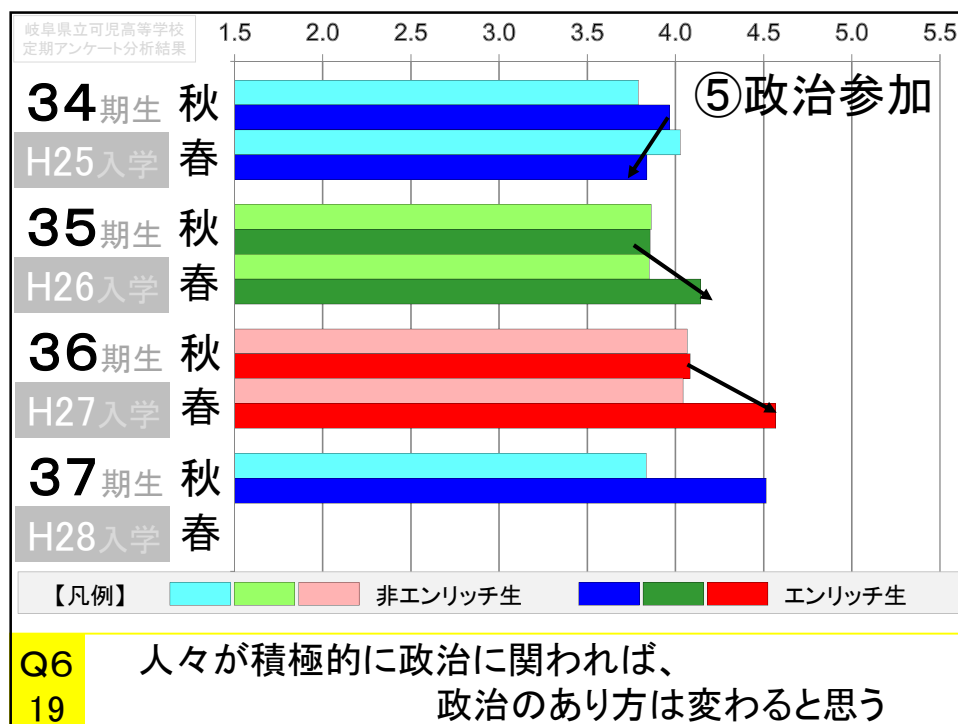
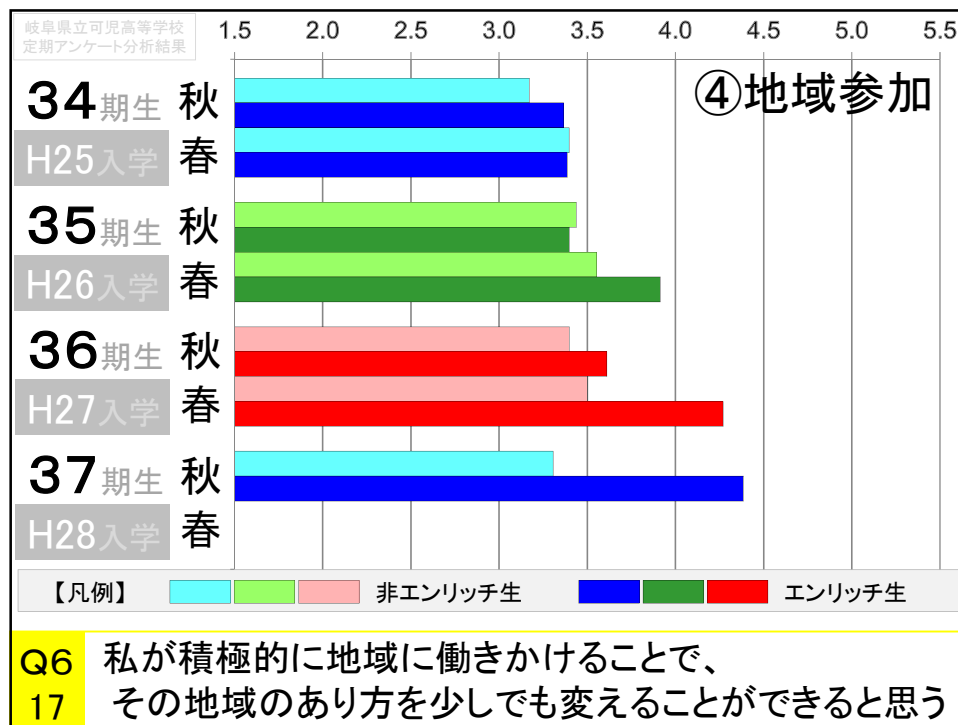


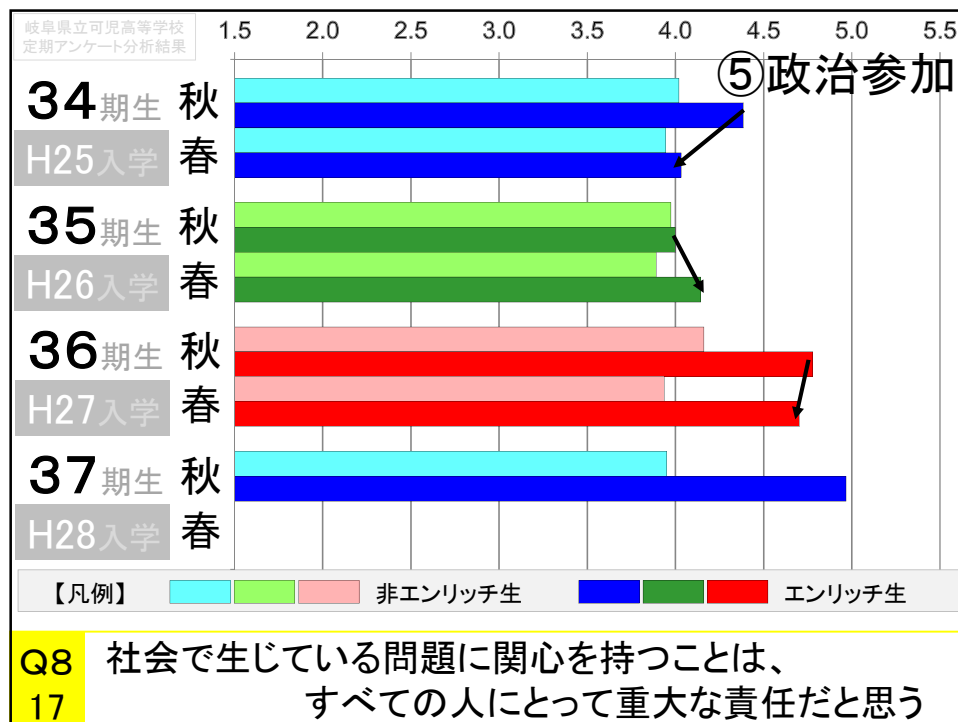
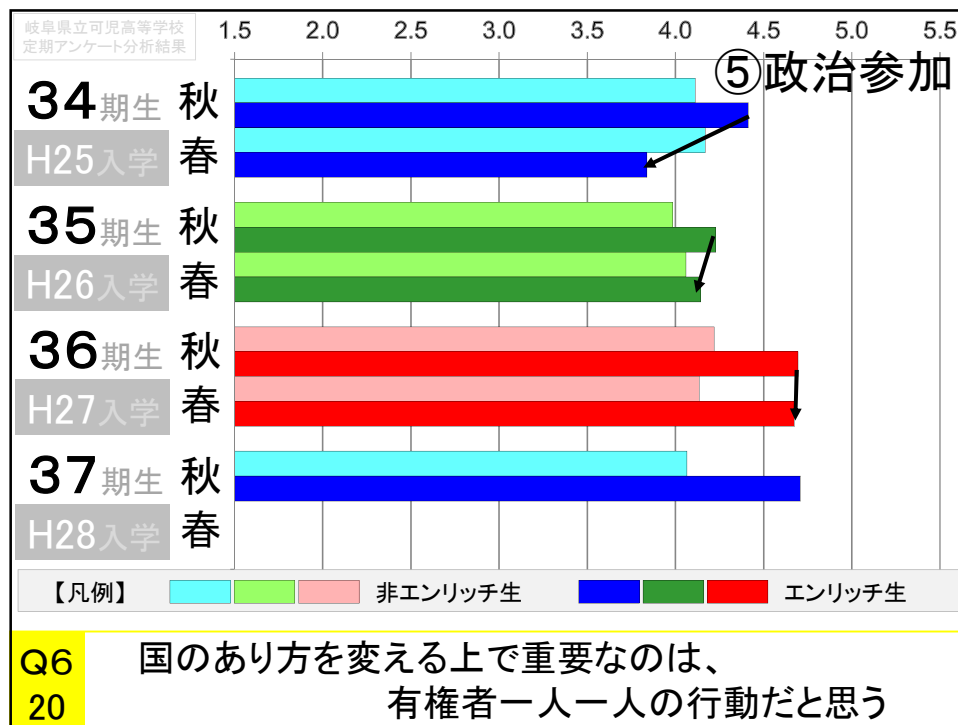












先進校視察 選定理由 & 主要質問項目

① 9月27日：兵庫県立^{かいばら}柏原高等学校

- 【理由】 ・進学校ながら地域連携に対して高い主体性を発揮している。
・進学校に必要な「地域から global & academic」という流れを具現化している。
- 【質問】 ・学校として地域連携に力強く踏み込むようになった理由や経緯は何か？
・「地域から global & academic」という流れをつくる上での課題は何か？
また、そうした課題をどのように克服したか？
・地域連携に踏み切る前後で、生徒の意識や姿勢にどのような相違があるか？
・地域連携に踏み切った後、地域や中学生から何か特徴的な反響はあったか？

② 10月8日：富士市立高等学校 … 学校開放日に訪問

- 【理由】 ・市役所との関わりが深い。 ・探究学習を組織的 & 計画的に実施している。
- 【質問】 ・高校が市役所と関わる必要性や必然性は何か？ ←市民団体主導に限界を実感
・探究を「単発」ではなく「サイクル」として実施する効果は具体的に何があるか？
・探究は従来の時間で十分か？ ← 普通教科の授業で実施すべき必要性を実感中
・地域連携や探究活動に抵抗感をもつ教員の当事者性が高まる仕組みはあるか？

③ 10月15日：島根県立大東高等学校 …「雲南市教育フェスタ」の会場にて面会

- 【理由】 ・地域活動に対して学校として強力に生徒を送り出している。
- 【質問】 ・全員が参加する活動と一部が参加する活動には、それぞれ何があるか？
・生徒の地域活動を学校として位置づけた理由は何か？
・生徒を地域に送り出して、何がどのように変わったか？ （生徒の姿勢等）

④ 10月27日：福岡城東高等学校（私立）

- 【理由】 ・地元諸機関と連携して積極的に主権者教育を行っている。
・A Lにも力を入れており、主権者教育～キャリア教育～A Lの望ましい関係性について知見を得られると期待される。
・訪問当日、授業公開を実施している。
- 【質問】 ・生徒に社会形成意識が芽生える要因は何か？
・主権者教育において学校側の「労力対効果」が最大になる状態とは何か？
・主権者教育～キャリア教育～A L型授業の関係についてどう考えているか？

(H28.9.7.浦崎)

主権者教育推進事業「先進校視察」のまとめに関するお願い

今後、以下のように進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【目的】視察先と本校を比較対照することにより、次の三点を明らかにする。

- 次の仮説が成立する範囲や成立するための前提条件は何か？
- 本校は現状において、どの前提条件がどこまで満たされているか？
- 本校で地域協働を拡充していくために必要な条件は何か？（校内／校外）

【仮説】

地域をよくしようと尽力する大人と出会い、課題の解決策を探る活動を共にすれば、「社会形成に対して自分はどのように関わっていくのか？」「そのために自分はどのような進路を実現するのか？」に関する生徒の意識が向上し、学習意欲の向上につながるとともに、主権者教育・キャリア教育・高大接続等の要請に対して一体的に応える基盤が強化される。

【取材内容】

- ① 各視察先を訪問する目的に照らした情報収集の結果
- ② ①をふまえた、上記目的に関わる所見

今後の予定

10月21日（金） インタビュー開始

- ・ 視察のペアに対して、担当者がインタビュー

↓

10月28日（金） インタビュー終了

↓ 改革推進部で構造化

☆ 10月31日（月） 視察者相互報告会（16:50～17:40・小会議室） ← 出席依頼

- ・ 構造化した資料に基づき、視察者としてのまとめや見解を形成

↓

11月 1日（火） 改革推進部会（10:40～11:30）

- ・ 上記報告会をふまえ、改革推進部としてのまとめや見解を形成

↓

11月 1日（火） 企画委員会（15:50～）

- ・ 連絡事項において、上記のまとめや見解を報告（浦崎）

11月 4日（金） 視察報告書の原稿、職員会議用パワポ 〆切（午前中）

↓ 改革推進部で職員会議用資料作成

11月 8日（火） 職員会議（15:50～）

- ・ 連絡事項において、各訪問者から報告（パワポ）、改革推進部から全体報告

（H28.10.21.浦崎）

連絡事項 1 主権者教育 先進地視察 分析資料（第1報）：別表参照

改革推進部

目的 視察先と本校を比較対照することにより、次の三点を明らかにする。

- 次の仮説が成立する範囲や成立するための前提条件は何か？
- 本校は現状において、どの前提条件がどこまで満たされているか？
- 本校で地域協働を拡充していくために必要な条件は何か？（校内／校外）

仮説

地域をよくしようと尽力する大人と出会い、課題の解決策を探る活動を共にすれば、「社会形成に対して自分はどのように関わっていくのか？」「そのために自分はどのような進路を実現するのか？」に関する生徒の意識が向上し、学習意欲の向上につながるとともに、主権者教育・キャリア教育・高大接続等の要請に対して一体的に応える基盤が強化される。

<前提条件>

…番号 A は学校側、番号 B は地域側の条件。必ずしもどちらもそろっている必要はないが、どちらかがないと質の良い活動提供には至らないと考える。

1. 地域活動をする上での前提条件

- ① 地域に教材・体験の場となるリソースがあること
- ② 学校側の推進する窓口（個人／分掌）と地域側の受け入れ窓口があること

2. 主権者・キャリア教育目線の質の高い場の提供

- ③A 学校側に目標達成のための3年間のプログラムがあること（柏原・隠岐島前・富士）
- ③B 地域側に教育効果の高さを担保する体制があること（富士・遠野）→大学が関わると質の向上

3. 継続性を高める

- ④A 学校の行事として無理なく継続できる／担当者が変更してもできる仕組みがあること
- ④B 市としての高校生を動員する地域活性化ビジョン・部署があること

4. 緊急の課題ではない→生徒の姿が変わるのが一番の説得材料との声

- ⑤A 学校の職員全員の共通理解
- ⑤B 地域団体すべての共通理解

可児高校の場合

- ①地域活動団体の豊富さ、人脈によってこれから開拓していくことも可能なので○
- ②学校：改革推進部（来年からは進路指導部&地域担当？）・地域：縁塾 ○
- ③A③B 一番の課題か。分析は次項。×
- ④A 改革推進部から縁塾への事務面の移行が進めば可能。△
- ④B まだ×。いかに働きかけをしていくか。

＜動機と成果＞

- ・各地域、活動を始めたきっかけは（１）地域側 （２）学校側の危機感 のどちらかに大別
 - （１）地域側の危機感
 - ・「このままでは地域がなくなっていくので少しでも高校生を引き留めたい」（岩手県遠野市）
 - ・「地域課題解決型の探求授業をする」という地域の要請で合併した富士市立高校
 - （２）学校側の危機感
 - ・「このままでは入学者がいなくなってしまう」（隠岐島前高校・島根飯南高校）
 - ・「AO 入試に対応できない、志望理由書・自己推薦書が書けない」（遠野高校）
- ・地域の危機感が高く、実際に行動をしてくれるところは学校の運営が楽で継続しやすい。（引率をしなくてよい、参加者がゼロでも構わない、振り分けを地域がやってくれるなど）
- ・学校側の意識が高いところは、準備・運営にすごく苦労している一方で、育てたい生徒像が明確であり、普段の授業・成果発表会などで成長した成果が分かりやすい。

＜可児高校の現状＞

- ・学校主体で地域活動の形（例：隠岐島前／富士／柏原）ができればいいが、進学校であるのと同時に、行事が立て込んでいて学校主導で行うとしてもマンパワーが足りていない。
- ・地域にとってもよい活動のはずなのに、地域が淡泊なのでいつまでたってもバーチャルな活動にしかない（推進している側のモチベーションも下がる）。

＜可児高校の今後＞ 学校地域は互いに依存しすぎず、本来の役割を見つめ直す必要がある

○学校側

- ・エンリッチは進学校として「進路意識・学習意欲を沸かせる」「進路研究を行う」といった目的を達成させるための取り組みとして位置付けるべきでは。（現状：受験勉強というモチベーションだけで勉強できる生徒数の減少⇒学習意欲・進路意識を沸かせる取り組みが必要であると認識）
- ・そのために、3年間でどのような生徒を育てるのかの目標と、そのための教育活動・教育課程の見直しを慎重に行っていく必要があるのではないか（進路・教務・学校全体）。
- ・また、学習意欲を地域活動に求めるというのは学校の本質的にねじれていて、まずそれぞれの授業改善が課題となってくると考えられる。

⇔

○地域側

- ・縁塾の NPO 法人としての成長、事務やコーディネートをきちんとできるようにし、質の高い課題解決の場の提供を行う（大学や県など、さらに専門的な学問研究・職業の視点を入れていく）。
- ・もっと多くの市役所の参加で可児市の将来的なビジョンをもとに縁塾を主導する必要がある（うまくいっているところは市役所のビジョン・資金援助・人的援助がある）
- ・地域の次世代育成をまず自分たちの力で行うべきで、学校の人的動員に依存しすぎない体制を。

別表：視察先各校の特徴(相互比較)

	可児高校	遠野高校	隠岐島前高校	柏原高校	富士市立高校	大東高校	飯南高校	福岡城東高校
プロジェクト名	エンリッチプロジェクト	遠野オフキャンパス	隠岐島前魅力化プロジェクト	丹波からTAMBAへ	究タイム	雲南教育フェスタ		「高校生のための模擬選挙」
学校規模	857名(学年7クラス)	417名(学年4クラス)	240名(学年2クラス)	783名(学年7クラス)	710名(総合3クラス、ビジネス2クラス、スポーツ1クラス)			1650名(普通科1学年定員350名、工業科200名)
設置科	普通科(進学校)	普通科	普通科 特別進学コース・地域創造コース	普通科	総合探求科・ビジネス探求科・スポーツ探求科	普通科	普通科 就職・進学	福岡工業大附属私立 普通科・電気科・電子情報科
運営体制	改革推進部	進路指導部	授業に位置づけ・SGH	授業に位置づけ・SGH事業構想	授業に位置づけ・主事が教育委員会から出向	総合学習	総合学習	高校生実行委員会(福岡城東・博多高校)
工夫点	・コ－ディネート団体縁塾の存在 ・普通科進学校で唯一1年の全員参加	・圧倒的に市役所が運営に関わり、学校の継続面が楽。 ・小さな活動を継続してやっていくことにたけている。	・島留学・公立塾・SGHなど学校の存在をかけた一連のプロジェクトの一つとして位置づけ ・授業で3年かけて何度も取材に行かせる	・3年間の探求課題が位置付けられている ・海外留学の推進 ・学校型／Uターンしなくてもよい	・学校の合併・探求科目設定自体が地域の要請のため、地域のバックアップ・設備の充実性・学校のカリキュラムがもとともつつかりで	・雲南市は文部科学省とのつながりが深く、小学校～高校までの12年間を通してキャリア教育を想定している。 ・島根大学との連携	・学校の消失を懸念し、中学生に対して市内体験ツアーを高校生が企画している。	・参院選に際して、実際の候補者呼んで討論会を行った。(開票は×) ・福岡工大がバックアップ ・授業改善自体も積極的
所在地	岐阜県可児市	岩手県遠野市	島根県隠岐郡海士町	兵庫県丹波市	静岡県富士市	島根県雲南市		福岡県福岡市
人口	約10万人	約3万人	約2000人	約7万人	約25万人	約4万人	約146万人	
産業基盤	自動車産業・名古屋のベッドタウン	歴史・観光・農業 遠野物語	島の暮らし	農業	製紙産業・富士山	農業・少し工業	田舎 都会	成鉱→第三次産業
運営体制	縁塾	市役所・建築士(仕掛け人)	公立塾隠岐国学習センター	地域住民？NPO？	市役所	市役所・教委・文科省		
導入のきっかけ	・学校の職員と市議会議員の意見交換	・市役所の要請と学校の進路に対する危機感の一致	・高校の存続の危機感	・少子化への危機感 ・SGHほしい	・設立の時点から		・入学者数の減少	・人口増加社会であり、生徒たちの当事者意識がないことを危惧した
成果	・地域活動意識／進路意識など得るものは違いますが、うまく合致すれば生徒の視野が広がる	地域に戻ってくる意識 AO入試の合格率大幅UP	島留学で生徒数V字回復	学習意欲の増大 地域形成意識の醸成	普通の子でも意見の表明・発表ができるようになる			・選挙に行きたいと答えた生徒が事前6割→事後8割 ・授業改善により進路実績(国公立)の上昇

平成28年10月末における総括

本校にとって地域連携は**必要**なのか？

- 長期的な**メリット**は一応理解
- 誰のため、何のための連携なのか？
 - ・ 学習意欲は向上するのか？



- **喫緊の必要性**はあるのか？
- **目的**は何で、**効果**はあるのか？

(地域の側でも同様の声)

学校として関わる必要性

◆ **今回、義務は発生するのか？**

発生する

「**社会に開かれた教育課程**」

- 高大接続システム改革
- 新学習指導要領

(将来的には **学校運営協議会 必置** ?)

学校として関わる必要性

◆ **関わらないとどうなるのか？**

- ▲ 「全ての授業科目で『社会に開かれた教育課程』を！」と迫られるのは必至



- ▲ 生徒も教師も授業時間を奪われる
- ▲ 教師は不得意業務に労力を奪われる



- ▲ 既存の教科指導が崩壊する危険性
- 地域と関わらないデメリットの方が大きい**

学校として関わる必要性

◆ **関わらないとどうなるのか？**

- 大学には文科省から「選抜改革圧力」
- 大学は 高校の改革状況に応じて理由書等に充てる配点や定員を拡大
- **高校の地域協働は後戻りしない段階**
(愛媛県等は既に県教委レベルで対応)



- ▲ 従来の指導だけでは合格が難しくなる
- 進学校としての地位を失う趨勢は不可避**

可児高校は何をすればよいのか？



可児高校は何をすればよいのか？

◎ 昨春同様の「**リアル模擬選挙**」が合理的

- 地元の側にも既に十分な経験値あり
- 教育効果は実証済み
 - ・ 「対話的・協働的な課題解決活動」
 - ・ 「思考力・判断力・表現力」
- 主権者教育や探究活動等も織り込める
- 諸科目との有機化も十分に可能
- 体育館で全校生徒が活動できる
- 地元側の必要性も高い (**投票率向上等**)

いつ実施するのか？

平成29年 11月 2日(木) 午後

- ▲ 4～5月・学業に専念させたい
- ▲ 6～9月・学校行事が目白押し
学校祭準備・修学旅行・学校祭・考査
- ▲ 10月・後期早々で落ち着かない
- 11月・地域連携の発表会を予定済
- 11月・ふるさと教育週間(要・授業公開)
- ▲ 12～2月・寒くて体育館の利用は不可
- ▲ 3月・年度末業務で非常に慌ただしい

次回模擬選挙にむけた流れ

- 11～12月・一連の流れを学校内外で共有化
2行事(↓)に参加する生徒の確保
- 12月後半・行政クロスロード、地域医療IPE
「模擬選挙」参画への意識づけ
- 2月9日・高校生議会(準備体験)
- 2～3月・企画母体確立・事前学習・諸手続
- 4～7月・休眠期(新規組織化は困難)
- 8月・企画会議(集中的に実施)
- 10月・実施準備
- 11月2日・模擬選挙(当日)

平成28年 11～12月の重要課題

11～12月・一連の流れを学校内外で共有化
2行事(↓)に参加する生徒の確保

12月16日・行政クロスロード

12月24日・地域医療IPE

「模擬選挙」参画への意識づけ

2月9日・高校生議会

[目標] 行政クロスロード後に
1年生から数名が立候補

候補生徒を確実に吸収できる仕掛けの構築

テーマの選定

行政クロスロード や 高校生議会 の
テーマを 社会保障 に設定

必要人数

12月16日・行政クロスロード ← 15名

12月24日・地域医療IPE ← 25～30名



2月9日・高校生議会 ← 20名以上

- 高校生議会に
地域医療IPE参加者を取り込める
- 「現代社会」で全員が討議を経験している

展望の共有化にむけた内外の手続

- 11月 9日 可児市役所訪問
総合政策課・秘書課(研修)と協議
- 11月21日 可児市議会事務局と下打合せ
- 11月24日 連絡調整会議
- 11月28日 校長に全面協力を要請
- 11月29日 企画委員会
- 12月 6日 全校集会 (2行事の説明)
- 12月13日 職員会議 (重要性を説明)
参加させたい生徒を一本釣り
- 12月15日 直前オリテン (展望を予告)



可児市・可児市議会・可児高校 連絡調整会議

議題1 H29年度の模擬選挙にむけた流れについて（案）

■ 本提案の位置づけ

- 今年度、本校は県教委より「主権者教育推進事業」の研究指定を受けており、昨春のような模擬選挙を年度内に実施する取組の代替として、「種々の今日的な教育課題を俯瞰しつつ、地域課題解決型キャリア教育を既存の取組との統合をすすめる」旨を計画書に明記している。
- 本提案は、報告書に記す成果として、エンリッチに関する今年度の成果や反省をふまえつつ、次回の模擬選挙（H29年度）がより充実した学習の機会となるよう、当日にむけた中長期的な流れを示したものである。
- 主な内容は、昨春に準じた内容を前提とした「企画や運営の中核を担う生徒の先行的育成」であり、該当生徒・本校職員・地域関係者それぞれにとって「労力対効果」の値が最大限となるよう、12月に予定されている「行政クロスロード」等からの流れを考案した。
- 以上、「行政クロスロード等～高校生議会～模擬選挙」の流れについて了承の上、特に、模擬選挙の企画を担う生徒の候補者に対して、各行事への参加につき、働きかけをお願いしたい。

■ 前提条件の整理

- 地域連携に関する学校側の必要性は「学習意欲やキャリア意識の向上」「大学入学者選抜改革や教育課程改定への対応」にあり、その達成に必要な取組については、学校が主体性を発揮し、可能な限り教育課程（授業時間）を通して実現するのが本来の姿である。
※ 詳細は「資料①」参照。

■ これまでの経緯 →「資料②」参照。

■ 昨春型の模擬選挙に対する認識

- 主権者教育の直接的な目的である「投票率の向上」に対して有効であるばかりでなく、「複雑系における唯一解のない課題に対し、主体性・多様性・協働性の高い活動を通して、納得解を創りだすことのできる人材を育成する」という、高校教育の今日的な課題に照らしても必要性や有効性が高く、学校として実践する価値が高い。
- ※ 上記のような今日的課題に対して他の手段で代替しようとした場合、貴重な授業時間は削減され、投じるべき労力は増大する割に、教育的な効果は低い、という結末は不可避と考えられる。

■ 目的

- 大学入学者選抜改革や次期教育課程を見据え、生徒の「探究能力」「主体性・多様性・協働性の高い集団で課題を発見＆解決する力」「学修実績書＆計画書を書く力」を高める学習活動を学校として組織的に展開できる体制の確立にむけ、「このような生徒が、このような活動を通して、このように育った」という実績やノウハウを地域関係者とともに蓄積する。

■ 達成像：昨春の模擬選挙＋αをイメージ

- 2年生を中心とする本校生徒（最低5名程度）が、可児市議会・可児市選管等のメンバーとともに模擬選挙を企画し、当日も運営の中核を担っている。

- 立候補者が掲げる政策のメリットやデメリットについて、当日までに1～2年生全員が個々に情報収集を行った上で、当日はグループワークを通して各者が認識を深め、根拠をもって投票行動ができています。
- すなわち、課題設定（政策提示）→ 情報収集（各自取材）→ 整理分析（グループワーク）→ まとめ&表現（投票）という形で「対話的&協働的な学び」や「探究活動」が実現できている。
- 以上の成果として、生徒の「社会形成姿勢」「探究能力」等が向上している。

■ 模擬選挙の実施時期

- 平成29年11月2日（木）、ふるさと教育週間の学校開放日に、公開内容の一部として実施
※ 5限の授業を公開 → 6～7限に体育館で活動を実施 / 地域連携に関わる視察も受入

■ 達成像から逆算した必要条件に基づく展開計画

12月のエンリッチ「行政クロスロード」「地域医療福祉 I P E」に参加した1年生の中から、模擬選挙（来年11月）にむけた中核メンバーが生まれるよう、12月の段階で、可能な範囲内で、やや広めに募集をかける。（…理由は「資料③」参照）

- ① 12月16日：エンリッチの「行政クロスロード」に中核メンバー候補者等が参加（20名程度）。
 ※ テーマは「**社会保障**」に設定（…理由は「資料④」参照）
 ↓ 行政クロスロードや地域医療福祉 I P Eを通して、当事者意識が向上。
 ↓ ①をふまえ、②で議論する課題を明確化（課題設定） / 事前学習（情報収集）
- ② 2月9日（木）15時～17時30分 高校生議会（予定）：①の参加者等より、15名程度が参加。
 [第1部] 議員や関係の現職等と「社会保障」に関わる問題で議論
 [第2部] 議論の成果を議場で提言
 ↓
- ③ 3月：（必要な地域活動等）
 ↓
- ④ 8月： 模擬選挙の計画を具体化（… この段階で残っているメンバー + 地域関係者）
 ※ 夏休み中に企画会議を1～2回程度開催。細部まで固め、8月下旬の企画委員会で提案。
 ↓
- ⑤ 9～11月： 1～2年生（全員）が必要な事前学習 / 然るべき組織で運営準備
 ↓
- ⑥ 11月2日： 模擬選挙（学校開放日に実施）

資料① 前提条件の整理

- 県教委事業（県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業：H25～27年度）の一環として地域連携を進めていた段階では、「抜本的改革」という趣旨に照らした「長期的なメリット」に基づいて動くことができた。しかし、「長期的なメリット」は「喫緊の必要性」と矛盾する場合が多く、今後、学校として「組織的＆継続的」に連携事業を進めていくためには「喫緊の必要性が高い」ことをふまえる必要性が高くなった。
- 同様に「事業全体のメリット」を語ることはあっても、「個々のプログラム」について「学校にとっての目的／地域にとっての目的」が不明確ゆえに、プログラムの練り上げに甘さが残り、各々が期待する成果を収められない例も少なくなかった。
- ◎ **今後は、事業全体および個々のプログラムについて、連携＆協働する目的や必要性を各者の立場から明確化し、目的の達成を必要とする側が十分な主体性を発揮していくことが必要である。**
- 学校側の目的は「学習意欲やキャリア意識の向上」「大学入学者選抜改革や教育課程改定への対応」。学校側の必要性に基づく活動は、可能な限り教育課程（授業時間）を通して実現する努力を行う。その上で、そこに地域のリソースが必要ならば地域の支援を得る。また、労力対効果の観点から、授業時間の実施が不適当な取組については、放課後や土休日等を実施する。
- 地域側は、「地域全体の長期的なメリット」をふまえた「各担当課／各地域団体にとっての直接的な必要性や短期的な効果」として、「各々が掲げる目標の達成」「担い手の充足」が目的。こうした地域側の必要性に基づく活動は、基本、地域機関や地域団体等が長期休暇等に企画＆運営し、学校側に生徒の参加を要請する。

資料② これまでの経緯

- 平成28年3月25日、可児市議会・可児市選管・縁塾等の支援を受けて実施した模擬選挙は、外部から優良事例として評価され、参院選で有権生徒の投票率が90%に達する等、高い学習成果を収めることもできた。
- このような規模や内容の模擬選挙は、他の教育活動とのトータルバランス等を総合的に考慮して「2年に1回の実施」とすることが、関係者間で合意された。
- その後、上記のような実績も背景として、本校は今年度、県教委より「主権者教育推進事業」の研究指定（単年度）を受けた。今年度は模擬選挙を実施しないことから、主な研究内容として、「主権者教育と地域課題解決型キャリア教育の統合」を位置づけることになった。あわせて、大学入学者選抜改革や新教育課程を見据え、探究活動・アクティブラーニング・高大接続等との有機化も模索することとした。
- 「夏のOPENエンリッチ」におけるプログラムの1つとして可児市役所が企画～運営した「行政クロスロード」は、課題解決活動として非常に質が高かったばかりでなく、市が職員研修の一環として位置づけた点において画期的であった。（…市は今後とも組織的＆継続的に実施していく方向で考えている。）
- 今年度の学校訪問受入に関する反省を通して、来年度、地域連携に関連した訪問受入は「年1回、10月下旬～11月中旬」とする方向性が共有された。
- 主権者教育推進事業に係る9～10月の先進校視察を通して、学校と地域が連携して実施する事

業について、以下の方向性が共有された。

- ・ 学校が必要とする活動は、学校が教育課程に位置づけ、授業時間内に実施する。
- ・ 地域が必要とする活動は、学校とのパイプ役として縁塾を介しつつ、地域の機関や団体等が主体となって企画し、希望者を対象として、授業時間外＝長期休暇等を実施する。

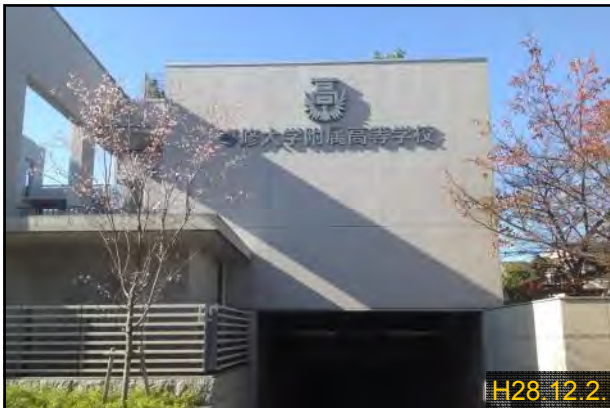
資料③ 模擬選挙から逆算して、確立していきたい基盤

- 8月を迎える段階で「生徒有志の企画母体が即座に動ける」態勢にあることが必須。
 - 2年の行事計画を考慮すると、2年生になる時点で組織化を終えていることが望ましい。
 - 遡って、高校生議会（2月9日）の段階で自覚ができていることが望ましい。
 - 「冬のエンリッチ」を機会に組織化を開始できれば、後々、無理がない。
 - ※ 「生徒会執行部の一部が企画メンバーを務める」形はできないか？
- 運営体制として、実行委員会が必要。
 - ・ 生徒議会の活動に位置づけ、議員を構成員とするのが一案。

資料④ テーマを「社会保障」に定める理由

- 1) 現1年生は「現代社会」の授業において、全員が以下の学習活動を経験している。
 - ・ 可児市職員による「可児市の財政」に関する出前講座
 - ・ 社会保障に関するグループ討議
- 2) 市役所や市議会としても参加しやすく、参加する価値も高い。
- 3) やや広めのテーマであるため、興味や志望の多様性に応えやすく、参加者を確保しやすい。
- 4) 意識が比較的高い「医療福祉IPE」経験者も中核メンバーに合流可能。

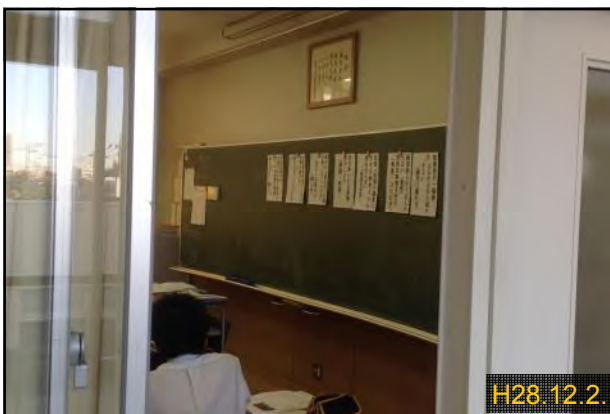
（H28.11.28.浦崎）



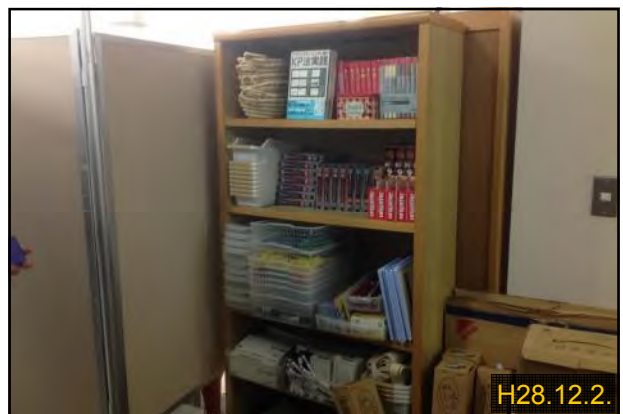
KP法の実践者が数多く活躍する専修大学附属高校



校舎内観



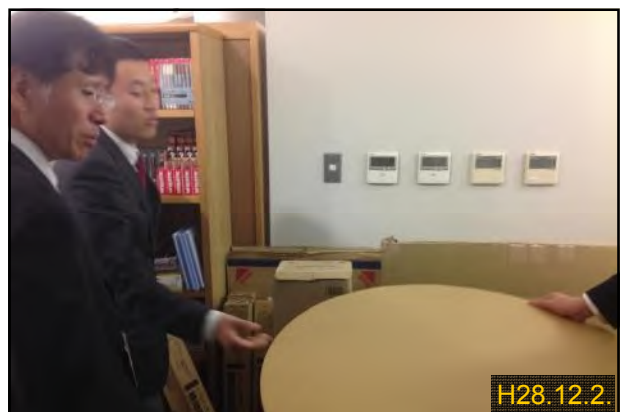
KP法を活用した授業の一例



すぐ教室へ持って行けるよう 文具類は専用棚に



卓上使用も黒板貼付も可能なホワイトボード(A3版)



段ボール製の簡易卓「えんたくん」も装備

掲示

冬のエンリッチ・プログラム

- 夏のOPENエンリッチを通して「もっと深く地域課題に関わってみたい!」「志望分野に関する理解を深めたい」という人のために用意されたプログラムです。
- 今後も長期休暇を中心に募集がある予定ですが、とりあえず今回は12月後半に開催されるプログラムを紹介します。
- いずれも「総合的な学習の時間」にカウントされます。
- **参加希望者**は、裏面の名票に「○」をつけてください。 一次締切：12月9日（金）

1. 行政クロスロード（発展編）

日 時： 12月 16日（金） 14～16時

会 場： 本校 大会議室

主対象： 公務員志望者、まちづくりに関心のある人、ほか

内 容： ・YESかNOか意思決定が難しい地域課題について、ベターな方策を市役所の若手職員や市議会議員と一緒に探ります。夏よりも脳が汗をかく問題で実施されます。
・今回のテーマは「社会保障」。

定 員： 20名程度

参加費： 無料

2. 地域医療福祉のIPE研修会

※ IPE = Interprofessional Education：多職種間連携教育 … 様々な立場の人々による「ごちゃまぜ」会議。

日 時： 12月 24日（土） 9～17時

会 場： タワー診療所（JR岐阜駅隣接・シティタワー43内）ほか

主対象： 医療福祉系志望者、ほか

内 容： ・午前は、タワー43や周辺への訪問診療や訪問看護に同行し、訪問家庭の方との交流や昼食も予定されています。
・午後は、夏の事例提供者（Mさん）が再び来場され、今回は「障害者の就労」をテーマに、医療～福祉～経済社会のよりよいつながりについて理解を深めます。
・最後に、地域医療の今後について、IPEの先駆者・吉村学先生（宮崎大学医学部）から講話があります。

主 催： 岐阜へき地医療IPE研究会

今回も医療・保健・福祉の多様な現職や学生が参加予定です。

参加費： 高校生は無料

備 考： 現地集合／現地解散

※ 問合せ先： HR担任 または 浦崎先生、奥田先生まで。



H28.12.16.

行政クロスロード 2016冬



H28.12.16.

夏と同様、可児市は市職員の6年目研修に位置づけ



H28.12.16.

行政クロスロード 2016冬



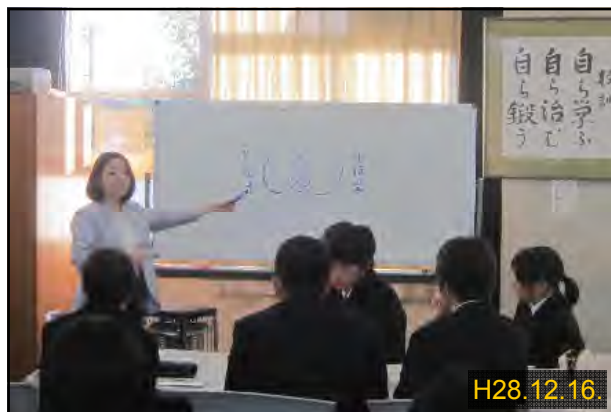
H28.12.16.

行政クロスロード 2016冬



H28.12.16.

可児市職員・可児市議会関係者とともに



H28.12.16.

当面、高校生議会(2月)の企画メンバーを募集



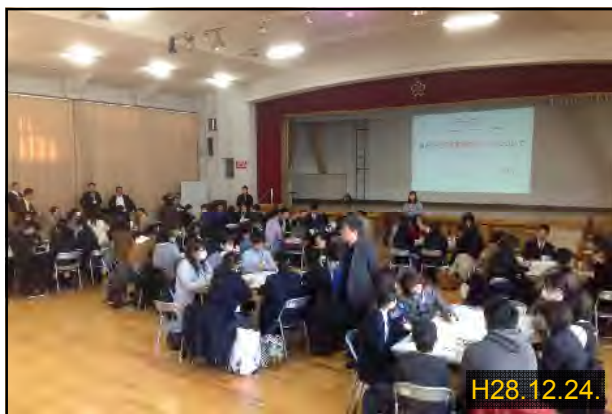
H28.12.16.

高校生議会にむけた市議会関係者との企画会議



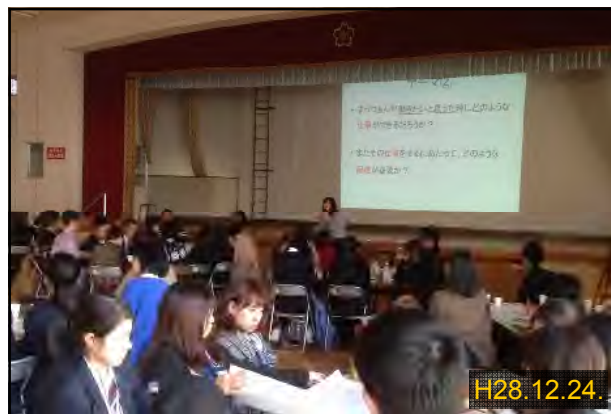
H28.12.16.

生徒は6名(2年2名・1年4名)が参加



H28.12.24.

地域医療IPE研修会 2016冬



H28.12.24.

身障者「どんな仕事ができるか?」「必要な配慮は?」



H28.12.24.

当事者も各班を回って検討に参加



H28.12.24.

御礼の挨拶 & 記念品贈呈

議題1 高校生議会について（案）

■ 目的

- 来年度の模擬選挙（予定：11月2日）において、可児市議会・可児市選管等のメンバーとともに内容等の企画を担う核を形成する。

■ 目標

- 参加した1年生の中から、数名程度が企画メンバーに志願している。
- テーマ（社会保障）に関わる現状や課題について、理解が深まっている。

■ 日時等

2月9日（木）15時～17時30分 可児市議会（可児市役所東館5階） ※ 詳細は別紙参照

〔第1部〕議員や関係の現職等と「社会保障」に関わる問題で議論

〔第2部〕議論の成果を議場で提言

■ 参加生徒

1～2年生 約25名 ※ 具体的な参加者は未定（1/10現在）

- ・ 1/18 告知＆申込受付開始
- ・ 1/23 申込受付終了 → 調整 → 1/27を目途に確定

※ 調整は、行政クロスロード（12/16）参加者 17名、地域医療&福祉 I P E（12/24）参加者 27名のうち「参加してもよい」と表明している者等に働きかけを行う。

■ 会場への移動

- ・ 可児市議会が手配するバス または 自転車（…事前に把握）
- ・ バスは、本校発14:30→市役所着14:45 / 市役所発17:40→本校着17:55

■ 当日にむけての準備

- 代表生徒2名：
 - ・ 1月11日or12日の放課後、具体的なテーマを議会関係者と協議。
- 参加生徒全員：
 - ・ 1月18日（水）～ 双方（議会／本校）で選定した予習資料を読み込む。（…URLを連絡）
 - ・ 2月 1日（水）朝 ワークシートを作成＆提出する。
 - ※ 設定される課題に対して「是か非か」を議論する予定なので、模擬選挙の時と同様、①メリットとデメリットを列挙し、②自分なりの意見を表明し、③質問を列挙する。
 - ↓ （担当職員）参加者全員分のワークシートを担当職員で印刷＆冊子化＆配付
 - ・ 2月 3日～6日 冊子を読み込み、新たな気づきがあれば、自分のシートに追記する。
 - ・ 2月 7日（火）15:40～16:30 直前オリエンテーション（グループで交流＆共有）

（H29.1.6.浦崎）

“模擬選挙”的な教育活動の教育課程への埋め込みについて（案）

【概要】

- ① 昨春に実施した「模擬選挙」のうち、地域課題を窓口とする「対話的で協働的な学び」…立会演説や投開票を除いた部分…のみ、毎年秋の恒例行事として位置づける。
- ② 2年秋に①の企画や運営を担う生徒の集団は、1年夏の「OPENエンリッチ」頃から学校として戦略的に育成する。
- ③ 様々な科目の内容と有機化できる余地を拡大するため、①の活動を終えた直後に翌年のテーマ選定を開始する。
- ④ ①の目的をより高度に達成するため、縁塾やPTAの支援を得て、地域関係者やPTA会員の参加をはかっていく。

【年間サイクルの案】

※ 以下、企画や運営を担う生徒を「リーダー生」、その候補者を「リーダー候補生」と呼んで説明する。

1 年	4月	エンリッチや“模擬選挙”的な活動について、学年全体を対象として、必要最小限のガイダンスを行う。
	6月	OPENエンリッチにむけて、 <u>リーダー候補生を然るべきプログラムに誘導</u> する。 (前提：“模擬選挙”的な活動につながるプログラムを意図的に用意する。)
	7月	該当プログラムを通して、 <u>リーダー候補生の参画意欲を高める</u> 。
	8月	本人が希望すれば、“模擬選挙”的な活動にむけた企画会議に参加させる。
	10月	「リーダー候補生」を「 <u>リーダー生</u> 」にする。 ↓ 2年生に混じって準備活動に参加。 以下、リーダー生は…
	11月	<u>“模擬選挙”的な活動の運営の一翼を担う</u> 。 ↓ 継続的に参加するか意思確認
	12月	<u>翌年度の方向性を2年生や地元関係者（市・市議会・縁塾等）と協議</u> する。
	：	：
	3月	春休みを活用し、計画の具体化に必要な学習活動に参加する。 (翌年度のOPENエンリッチのうち、該当プログラムの企画への参画も含む)
	：	：
2 年	7月	夏のOPENエンリッチにおいて、リーダー候補生（1年生）のサポートを担う。
	8月	<u>“模擬選挙”的な活動にむけた企画会議に参加</u> する。
	10月	準備活動の中核を担う。
	11月	<u>当日、運営の中核を担う</u> 。
	12月	翌年度の方向性を1年生や地元関係者（市・市議会・縁塾等）と協議する。 (<u>1年生のサポートにまわる</u>)
	3月	1年リーダー生の学習活動をサポートする。（…引退）

【今春の予定】

- 高校生議会（2月9日）の後、早速「リーダー生」を組織化する。 ← 見通しあり
- その後、地元関係者とともに、H29年秋の「模擬選挙」で扱うテーマを選定する。
- 地元からの要請に応じ、3月に「リーダー生」の研修を行う。

【高校生議会の今後】 … 年間サイクルの案に「高校生議会」が記されていない理由

以下の方向で、可児市議会に申し入れを行いたい。

- ① 2月の授業日に公認欠席を伴って参加するスタイルは今回限りとする。
- ② H29年度からは、“模擬選挙”的な活動にむけた事前学習の場として「夏のOPENエンリッチ」の1プログラムとして実施する。

[理由]

- ① 議会側の目的や必要性は、“模擬選挙”的な活動や「夏のOPENエンリッチ」で達成できる。
- ② 導入当初とは異なり、全ての生徒が学校で授業時間内に参加できる体制が確立したのに伴い、一部の生徒が公認欠席をとって議場に出かける意義が薄らいできた。

【PTAへの連携要請】

- 以下の内容を1月20日のPTA役員会で要請済み。

◆ H29年度の模擬選挙 … グループに大人を迎えたい

- ・ 11月2日(木)6～7限、「岐阜県ふるさと教育週間」の一部として実施予定。…5限は授業公開。
- ・ 前回同様、投開票の前にグループディスカッションを計画中。
- ・ 前は生徒だけのグループだったが、今回は「大人も混じったグループ」で実施したいと希望。
- ・ 1班グループあたり生徒を5名とすると 1～2年生で計 約110グループ。
1グループあたり大人1～2名とすると、必要な大人は 110～220人。
この人数を「縁塾」「PTA」各ルートで募集&充足する。

◆ 当日への流れ … お願い

- ・ 4月 P T A 総会で案内&募集
- ・ 6月頃 説明会 + 大人だけで対話体験【必須】 ← 縁塾主催／議会等が協力
- ・ 7月頃 夏の!OPENエンリッチで対話に参加【推奨】
- ・ 11/2 当日

(H29.1.30.浦崎)

掲示

冬のエンリッチ・プログラム 高校生議会

- 冬のエンリッチ・プログラム第2弾のお知らせです。毎年可児市議会と開催している「高校生議会」ですが、今回は3つのテーマで可児市の地域課題について討論を行います。
○目標 大人と可児市の現状について討論し、自分の視野や将来への展望を深めよう。

* 高校生議会 開催要項

日 時 : **2月9日(木)** 15:00~18:00 (学校着)
※当日は**6時間目公欠**、学校にバスが迎えに来ます。

会 場 : 可児市役所

定 員 : 25名

内 容 :

第1部 3つの地域課題のテーマに分かれ、可児市議会議員や市役所職員、地域団体の方々と意見交換をし、まとめます。

第2部 可児市議会の議場に入り、第1部でとりまとめた意見の発表・質疑応答を行います。

* 第1部のテーマ

テーマA 地域医療

常勤医師の減少が問題になっています。

あなたが可児市に残すなら、

→小児科？

→産婦人科？



テーマB 子育て

一般的な「子育て支援」は赤ちゃん～小学校までです。

あなたが重要視したいのは、
→**お腹の中にいる時から**の
子育て支援？

→高校生も子ども！**高校生**
への支援？

テーマC 行政

可児市の財源は限られています。

あなたが重要視したいのは、
→**失業者支援**？

→**起業したい人**への支援？



* 可児市の地域課題と言われてもよくわからない人へ

① 参加に際し、**事前のワークシート**があります。

② **2/7(火) 放課後**に1時間程度の**事前学習会**を行います。

※②に関して、その日に用事がある人は個別にフォローをします。

きちんと準備の学習をしてから臨みますので、不安に思っている人もぜひ一歩を踏み出してみま
しょう！

* 申し込み

参加希望の人は、参加したいテーマを選び(A・B・C)、**名列表**に○をつけてください。

参加申し込み〆切：**1月25日(水)**

問い合わせ先：H R担任の先生または、浦崎先生、奥田先生まで。

高校生議会 事前学習ワークシート A

年 組 番 名前

A

<事例を画面から考えよう>

小児科を充実させるメリットは？	産婦人科を新設しないデメリットは？
-----------------	-------------------

産婦人科を新設するメリットは？	小児科を今の状態にしておくデメリットは？
-----------------	----------------------

<調べ学習> 意見を述べる上で疑問に思ったことを調べてみよう。左ページの参考URLを見てみよう。

調べ学習のヒント：可児市の医療の現状は？今後の可児市の構想は？など

<提出め切> 2月7日(火) 事前学習会に持参してください。

① 参加に際し、事前のワークシートがあります。(このシート)

② 2/7 (火) 放課後に1時間程度の事前学習会を行います。

※②に関して、その日に用事がある人は個別にフォローをします。

当日は、専門の職業の人や地域課題を解決するために活動している議会、市役所、地域団体の人たちと討論を行います。積極的に討論に参加し、「参加してよかった!」と思えるような体験になるよう、あらかじめ準備をしておきましょう。

お題A：

現在、可児市・御嵩町では、出産できる病院（産婦人科医）はローズベレクリニック、とまつレディー スクリニクの2箇所です。小児科については開業医による診察と、可児とうの病院において4人の非常勤医師による診察が可能ですが、入院できる病院はありません（常勤医がいないため）。入院する必要がある場合は、美濃加茂市の木澤記念病院や県立多治見病院、多治見市民病院等を利用することになります。

産婦人科が存続の危機に陥った地方病院では、高額な報酬（約5,000万円）による医師確保を図りましたが、上手くいかなかった例もあります。また、兵庫県丹波市の県立病院では、医療崩壊の瀬戸際に陥りました。その原因のひとつは、軽い症状なのに時間外に受診する「コンビニ受診」の多さでした。小児科存続の危機に「子どもを守ろう、お医者さんを守ろう」と立ち上がった母親たちは、緊急受診が必要かどうかを自分で判断できるフローチャートを作ってコンビニ受診を控えるよう呼びかけました。母親たちの活動は医師たちを勇気づけ、市や商店街も協力して地域医療再生に動き出している例もあります。

可児市では、「住みごっこち一番可児」を掲げ、若い世代や子育て世代が住みやすいまちを作ることを目指すにさまざまな取り組みをしています。が、医療に関しては決して恵まれた環境にあるとは言えません。また、御嵩町においては、病院は1箇所しかありません。



設問：

そこで、市内にある総合病院に行政が補助金を出し、常勤医を2名確保することになりました。（常勤1名では入院患者と外来患者の対応は無理です。）小児科の充実か、産婦人科（急性期医療対応）の新設か、究極の選択を余儀なくされました。

皆さんはどちらを選択しますか。

参考URL ※アクセスする方法がない人は 奥田先生 まで

岐阜県ホームページ 地域医療構想 中濃地域 ※PDFなのでダウンロードが始まる場合があります
http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/iryo/horei/11221/tiikiiryoukousou.data/04_4syo_tyuno.pdf

ぎふ医療施設ポータル

<http://www.3.pref.gifu.lg.jp/pref/s11229/teikyo/>

可児市の医療施設(産科・産婦人科・小児科)

http://www.3.pref.gifu.lg.jp/pref/s11229/teikyo/medi_kamoku.php



一覧はこのQRコードからどうぞ！

高校生議会 事前学習ワークシート B

B

年 組 番 名前

<事例を画面から考えよう>

マイナス10か月からの取り組みの利点・充実させるメリットは？

お題 B：

少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化などの影響により、子育てが孤立し、子育てに悩む・疲れる親が増えていることが全国的な問題となっており、地域・社会のみんなで子育て家庭を応援し、支えていくことが求められています。

そこで、可児市では、「子育て世代の安心づくり」を実現するため、重点的な取り組みとして”マイナス10 カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て”を進めています。(別添資料参照) この取り組みは、子育ては子どもが生まれてから始まるのではなく、お腹の中に宿ったとき(マイナス10 カ月) からすでに始まっていることに重点を置き、そのときから子どもと子育て家庭が地域・社会とつながり、子育ての大切さを学び、みんなで子育てに関わっていくというものです。

しかし、妊娠期や小さな子どもを抱えて悩む方が多い中、相談支援などのサポートも実施していますが、現状は悩みがあってもわざわざ出かけてまでは参加されないという方も多く、今後はこうした方のサポートを考えていく必要があるなどの課題もあります。

また、医療費や高校・大学の授業料(給付型奨学金も含め) など高校生以上を対象とした助成制度や新城市が行う若者総合政策のような取り組みはありません。

設問

このような状況の中、新年度から新たに子育てにかかる取り組みを充実することになりました。しかし、予算の都合上、これまで行ってきた”マイナス10 カ月から つなぐ まなぶ かかわる 子育て”の内容をさらに充実させるのか、高校生など若者への支援として新たな取り組み(金銭的な支援や若い世代が活躍するための支援)を行うか、どちらかを選択しなければなりません。

皆さんはどちらを希望しますか。

参考 URL ※アクセスする方法がない人は 奥田先生 まで

可児市ホームページ きつずナビ <http://www.city.kani.lg.jp/6113.htm>
 可児市ホームページ 子育て支援応援隊
<http://www.city.kani.lg.jp/secure/10170/kosodatepanhuretto.pdf>
 子育て世代包括支援センター 厚生労働省
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/administer/office/pdf/s41-2.pdf>
 静岡県三島市ホームページ 子育て支援 (事例)
https://www.city.mishima.shizuoka.jp/web_event_contentlist2.html
 千葉県浦安市ホームページ 子育て支援(事例)
<http://www.city.urayasu.lg.jp/kodomo/index.html>
 名張市ホームページ子育て支援(事例)
<http://www.city.nabari.mie.jp/030/020/index.html>
 新城市の若者支援 (事例)
<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,0,194,940.html>
 奨学金問題の現状と課題 NHK 「社会問題化する奨学金」(視点・論点)
<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/241873.html>

一覧はこの QR コード
からどうぞ！



<提出メッセ> 2月7日(火) 事前学習会に持参してください。

① 参加に際し、事前のワークシートがあります。(このシート)

② 2/7 (火) 放課後に1時間程度の事前学習会を行います。

※②に関して、その日に用事がある人は個別にフォローをします。



高校生議会 事前学習ワークシート C

年 組 番 名前

C

<事例を画面から考えよう>

① 可児の既存企業への就職支援をするメリットは？	① 可児の既存企業への就職支援を行ううえで心配されることは？
--------------------------	--------------------------------

② 可児への起業支援をするメリットは？	② 可児への起業支援を行ううえで心配されることは？
---------------------	---------------------------

<調べ学習> 意見を述べる上で疑問に思ったことを調べてみよう。左ページの参考URLを見てみよう。 調べ学習のヒント：各自治体はどんな施策をしている？

<提出め切り> 2月7日(火) 事前学習会に持参してください。

- ① 参加に際し、事前のワークシートがあります。(このシート)
② 2/7 (火) 放課後に1時間程度の事前学習会を行います。

※②に関して、その日に用事がある人は個別にフォローをします。

当日は、専門の職業の人や地域課題を解決するために活動している議会、市役所、地域団体の人たちと討論を行います。積極的に討論に参加し、「参加してよかった!」と思えるような体験になるよう、あらかじめ準備をしておきましょう。

問題 C:

進学校の生徒は、多くは大学に通うため市外への通学もしくは市外・県外へ転出します。そして卒業後は就職される方がほとんどだと思いますが、その就職先は企業が多い大都市のほか、市外・県外の大学へ通っていた方は、やはり市外・県外ということが多いと思われます。

このような状況は人口流出の一因にもなっていると考えられ、可児市においては5年前と比較して人口減少が始まりつつあり、平成52(2040)年には現人口の2割近くが減少するといった推計がされています。

また、全国的に少子化・高齢化が進んでいます。可児市において年少人口(0歳から14歳)は昭和60(1985)年から、生産年齢人口(15歳から64歳)は平成17(2005)年から減少に転じており、老年人口(65歳以上)は一貫して増加を続け、平成17(2005)年には年少人口を上回っています。

こうした状況を踏まえ、全国各市で若い世代の定住化施策を進めているところがあります。

設問

そこで、皆さんに伺います。市内で就職する人が増えれば、定住人口も増えると考えられますが、そのため次の取り組みを進める場合、どちらをより重視したらよいと考えますか。

① 就職支度金支給や市内企業に就職すればもらえる奨励金などの金銭的な支援、市内企業による合同説明会・就職面接会やセミナーなどの催しを行い、既存企業に働く人を呼び込む就職支援

② 市内で働く場所が増えることにつながると思われるため、会社を興す人を支援するなどの起業支援

参考URL ※アクセスする方法がない人は 奥田先生 まで

上越市定住促進奨学金 (事例)

<http://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kikaku/syougakukin.html>

高山市若者定住促進事業補助金 (事例)

<http://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000067/1002790/1002803/1002804.html>

京都市ホームページ 若者就職支援 (事例)

<https://kyoto-wakamono.org/>

札幌市の創業支援

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/center/sougyou.html>

福岡市の起業創業支援

<http://sougyou.city.fukuoka.lg.jp/>

一覧はこのQRコードからどうぞ!



高校生議会 参考資料(ホームページ)

① 地域医療

岐阜県ホームページ 地域医療構想 中濃県域

http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/iryo/horei/11221/tiikiiryokousou.data/04_4syotyuno.pdf

ぎふ医療施設ポータル

<http://www3.pref.gifu.lg.jp/pref/s11229/teikyo/>

可児市の医療施設(産科・産婦人科・小児科)

http://www3.pref.gifu.lg.jp/pref/s11229/teikyo/medi_kamoku.php

②子育て

可児市ホームページ きつずナビ

<http://www.city.kani.lg.jp/6113.htm>

可児市ホームページ 子育て支援応援隊

<http://www.city.kani.lg.jp/secure/10170/kosodatepanhuretto.pdf>

子育て世代包括支援センター 厚生労働省

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/administer/office/pdf/s41-2.pdf>

静岡県三島市ホームページ 子育て支援 (事例)

https://www.city.mishima.shizuoka.jp/web_event_contentlist2.html

千葉県浦安市ホームページ 子育て支援(事例)

<http://www.city.urayasu.lg.jp/kodomo/index.html>

名張市ホームページ子育て支援(事例)

<http://www.city.nabari.mie.jp/030/020/index.html>

新城市の若者支援 (事例)

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,0,194,940.html>

奨学金問題の現状と課題 NHK「社会問題化する奨学金」(視点・論点)

<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/241873.html>

③税金(行政の取り組み)

上越市定住促進奨学金 (事例)

<http://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/kikaku/syougakukin.html>

高山市若者定住促進事業補助金 (事例)

<http://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000067/1002790/1002803/1002804.html>

京都市ホームページ 若者就職支援 (事例)

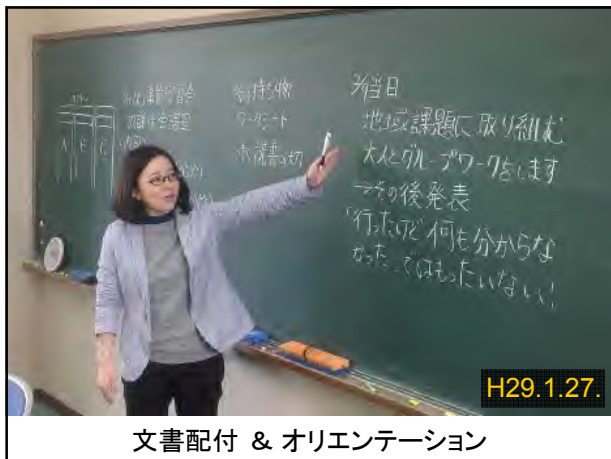
<https://kyoto-wakamono.org/>

札幌市の創業支援

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/center/sougyou.html>

福岡市の起業創業支援

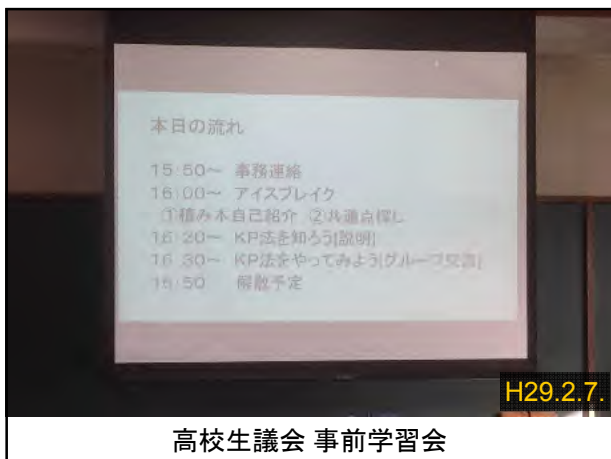
<http://sougyou.city.fukuoka.lg.jp/>



文書配付 & オリエンテーション



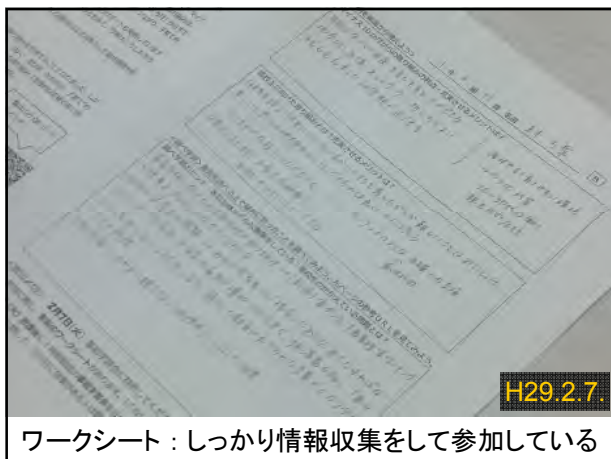
2年生10名・1年生25名・・・計35名が参加



高校生議会 事前学習会



国語科教諭・川原正史より KP法の説明



ワークシート：しっかり情報収集をして参加している



情報収集の成果を各班毎にKP法で発表



高校生議会 ― グループディスカッション



高校生議会 ― KP法による発表の準備



高校生議会 ― 成果発表と質疑応答



企画母体(縁塾×生徒) 顔合わせ



今秋の模擬選挙にむけて企画・運営を担う1年生



「教育課程への埋め込み」に向けた詰めの協議



H29.3.12.

午前中は、市議会とともに模擬選挙のテーマを検討



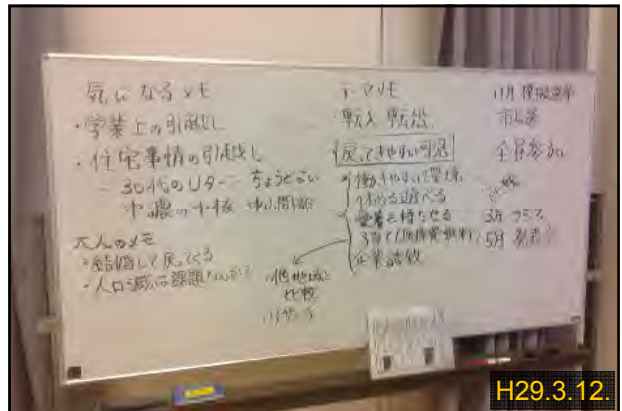
H29.3.12

可児高職員・奥田優奈が可児市の課題を講義



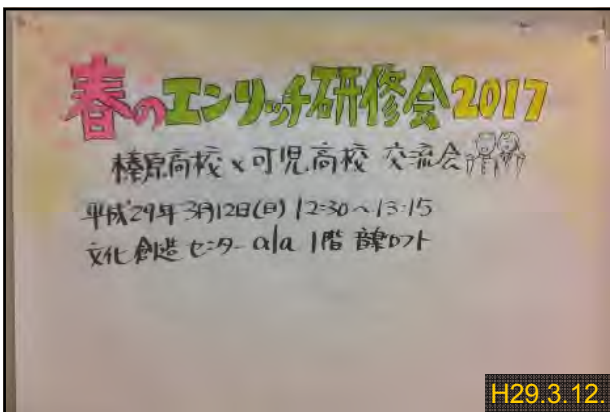
H29.3.12.

企画メンバーに立候補した1年生のうち4名が参加



H29.3.12.

テーマは「戻ってしやすい可児」に収束



H29.3.12.

午後は、二校の交流会を兼ねての研修会

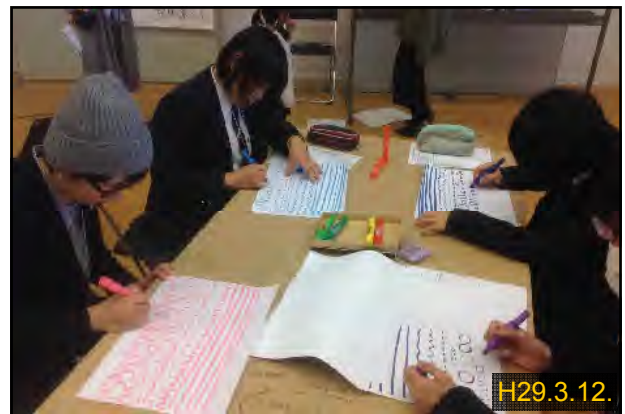


H29.3.12.

午後は、二校の交流会を兼ねての研修会



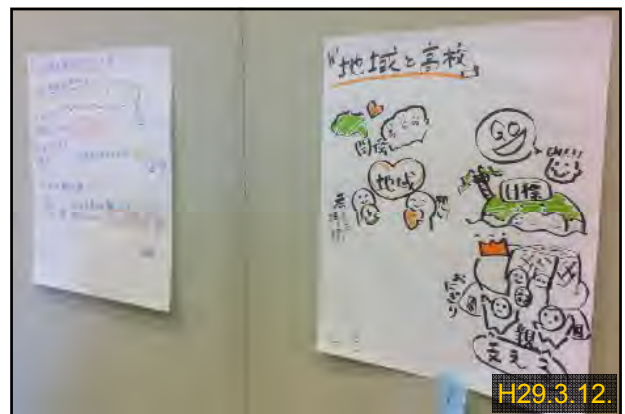
グラフィックの講師は、牧之原市の市民グラフィッカー



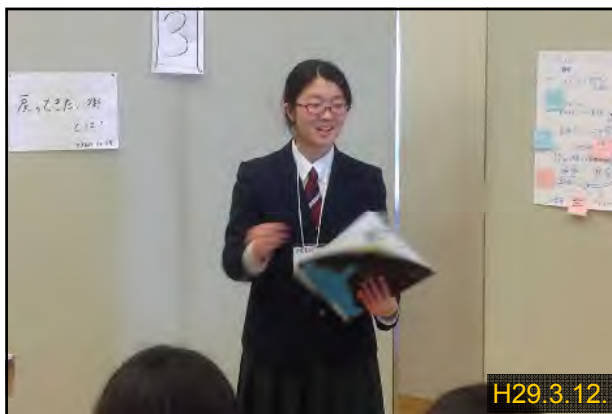
可児市の有志も交え、皆でグラフィックの練習



可児市の有志も交え、皆でグラフィックの練習



グラフィック・・・初心者による成果の一例



ファシリテーターの練習（可児高1年・Hさん）



各候補者の独自軸を形成するための検討会議

高校化学を通じて、エネルギー問題を考える ー地域との連携授業(バイオガス発電)の報告ー

可児高校 小 池 祐 紀

1. はじめに

2011年3月11日の東日本大震災を期に、脱原発を進める日本。しかしながら、原子力の代替として化石燃料の使用量が以前より増加しているのが現状である。日本は化石燃料のほとんどを海外から輸入しているため、現在の日本のエネルギーは海外に依存していることになる。また、化石燃料やウランは“枯渇資源”であるため、いつかは無くなる。エネルギーを自国(自分の地域)でつくり、かつ「枯渇しない(再生可能な)」エネルギー資源を、今後日本は求めていかなければならない。

そんな中、本校は地元可児市に提案された「廃棄系バイオマス利用によるバイオガス発電事業(2012年度)」の存在を知り、ゴミがエネルギーになる、まさに“枯渇しない”エネルギーを自分の地域でつくり出せる技術に着目した。本校生徒(3年生理系)にこの事業・技術を紹介し、エネルギーを自給することの重要性を理解させるとともに、この技術には「高校理科(化学)」の知識が活かされていることを伝え、化学がいかに社会で応用できるのかを実感してもらいたいと考え、事業提案企業であり、廃棄物処理を手掛ける株式会社橋本から講師を招き、特別講義をしていただくこととした。また、特別講義がより意味あるものとなるよう、事前学習を3時間計画し、特別講義を含めた計4時間を「特別授業：高校化学を通じて、エネルギー問題を考える」と題し、授業を実施した。

2. 特別授業計画と授業の詳細

(1) 特別授業計画

回	授 業 内 容
1	日本のエネルギー事情と課題
2	実験 バイオエタノールをつくろう
3	熱化学方程式・ヘスの法則の復習 燃料電池と水素の製法の復習
4	特別講義 バイオガス発電 ー生ごみを電気に変える技術と水素社会ー

(2) 授業の詳細

① 日本のエネルギー事情と課題

東日本大震災前と後での日本のエネルギーの内訳を示し、原子力の代替として化石燃料の使用が増加していることや、再生可能エネルギーの割合が増えてきていることなどを紹介した。また、他国のエネルギー内訳も紹介し、日本との違いなどを考察させた。

	化石燃料	原子力	再生可能 (水力を含む)
2010年 (震災前)	80.8%	15.1%	4.1%
2013年 (震災後)	92.0%	0.4%	7.5%
ドイツ	82.7%	6.8%	10.5%
中国	90.4%	0.9%	8.7%

② **実験** バイオエタノールをつくろう

バイオガス発電に欠かせない現象が「発酵」である。その発酵について理解を深めるため、比較的簡単にできる「アルコール発酵」を生徒に体験させた。

③ 熱化学方程式・ヘスの法則の復習、および燃料電池と水素の製法の復習

ヘスの法則と水素の製法の復習をした。水素を得るにはどんな方法があったかを、生徒に質問しながら復習した。(亜鉛に希硫酸、ナトリウムに水、水の電気分解、炭化水素と水蒸気の反応など。)

④ **特別講義** バイオガス発電

ー生ごみを電気に変える技術と水素社会ー

生ごみをメタン発酵によってメタンへ変え、生成したメタンを燃焼して得られる熱を利用して発電する「バイオガス発電」の技術について話をいただいた。講義の中盤で、演習問題1と2を解いた。

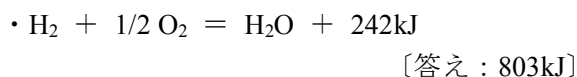
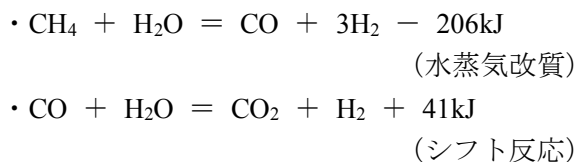
【演習1】メタンの燃焼の熱化学方程式をつくってみよう。二酸化炭素、水(気体)、メタンの生成熱はそれぞれ 394kJ/mol, 242kJ/mol, 75kJ/mol で

ある。 [答え：803kJ]

【演習2】 バイオマス（水分60%と固形分は全てグルコースと仮定）をバイオガス発電（熱効率30%）施設で80t/日処理します。可児市の何%の世帯の電力が賄えるでしょうか？（ただし、一般家庭での消費電力は10kWh/(日・世帯)、可児市の世帯数は約4万世帯(人口約10万人とする。)) [答え：約8.9%]

講義の後半では、「燃料電池」の話をしていただいた。燃料である水素の多くは、現在天然ガス(メタン)の水蒸気改質により得られているが、それではメタンを燃焼する場合と同様に二酸化炭素が排出されてしまう。そこで、生ごみのメタン発酵によりメタンを生成し、そのメタンを水蒸気改質により水素に変えて利用すれば、生じる二酸化炭素はカーボンニュートラルと考えられる。バイオガスには、今後多くの可能性があることを教えていただいた。最後に演習問題3と4を解いた。

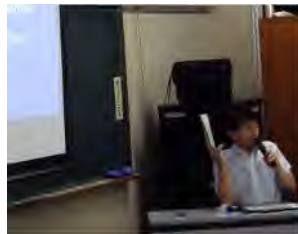
【演習3】 メタンを改質して水素からエネルギーをつくる場合、どれだけのエネルギーが得られるか？次の3つの熱化学方程式を用いて考えよ。



【演習4】 水蒸気改質に必要な熱量をメタンの燃焼で賄うとき、供給するメタンの何%を燃焼する必要があるか？ [答え：約17%]



問題に取り組む様子



講義の様子

3. アンケート結果と生徒の感想

特別講義の後、生徒にアンケートを実施した。その結果を以下に示す。

(1) エネルギー問題について考えるきっかけとなりましたか？

とても なった	なった	まあ なった	どちらで もない	ならな かった
20.5%	45.9%	24.7%	6.2%	2.7%

(2) 高校で学ぶ化学の知識が、社会で応用されているのだと実感することはできましたか？

とても できた	できた	まあ できた	できな かった	まったく できなかった
26.7%	37.7%	33.6%	0.7%	1.4%

(3) 生徒の感想

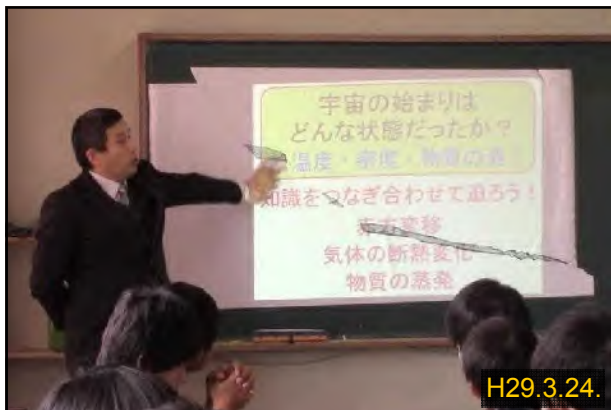
- ・可児市の何世帯分を賄えるのか計算したのがおもしろくて、すごく勉強になりました。
- ・普段の授業とは違って、化学の実用性について実感が持てました。
- ・バイオガス発電は、エネルギーを作り出すとともに、ゴミの処理もできるので、地球にやさしくみだと思った。
- ・これからは化石燃料を使わず、地球にやさしい発電がより広まってほしいと思いました。特に発展途上国に広まってほしいと思いました。
- ・バイオマスも再生可能エネルギーであると認識することができた。また、ゴミをエネルギーに変える微生物にも興味をもった。

4. まとめ

アンケート結果や生徒の感想などを見ると、多くの生徒が今回の特別授業の趣旨を理解し、目標も達成できたと感じる。特別授業を実施する前は、環境問題やエネルギー問題に興味をもっている生徒が少なかったが、この授業をきっかけに、再生可能エネルギーやバイオマスエネルギーについての知識と理解が深まり、「もう少し自分でも調べてみたい」という生徒もあり、将来再生可能エネルギーの技術開発や普及に関わる生徒が出てくることを期待したい。今回は特別授業と題し計4時間を費やしたが、進学校の3年生にとってこの時期の授業は特に貴重な時間である。来年度以降は、環境教育・エネルギー教育を普段の授業に上手く組み込み、授業の進度に影響しないように工夫をして実施していきたい。

5. 参考文献

- (1) エネルギーを選びなおす (岩波新書)
- (2) データでわかる 世界と日本のエネルギー大転換 (岩波ブックレット)



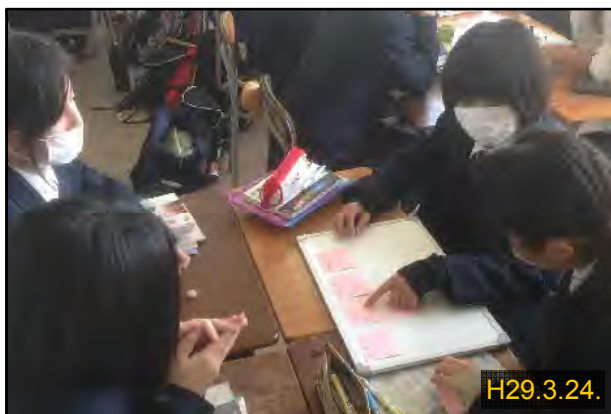
H29.3.24.

KP法を議論や思考整理に援用した授業(物理)



H29.3.24.

KP法は「現代文」の授業で慣れている



H29.3.24.

まず、卓上白板に付箋を貼りながら議論&思考整理



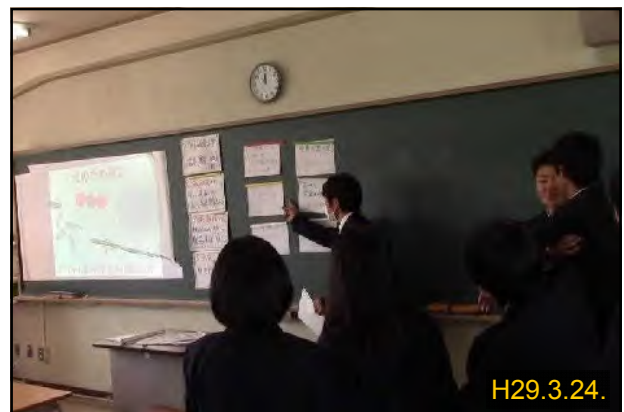
H29.3.24.

必要に応じて active learning に介入



H29.3.24.

卓上白板でKP法のリハーサル



H29.3.24.

最後に、KP法で黒板上にシートを貼りながら発表

エンリッチの諸活動を担当する係の部署変更について

1. 将来像

- 対話的・協働的・課題解決的な学習は「授業時間内に」「全生徒が」参加する形にする。
（教育課程に位置づける）
- 地域医療 I P E 等、分野が限られる一部のプログラムについては、従来通り、オープンキャンパス的な位置づけで「授業時間外に」「希望者が」参加する形にする。
（ただし、総学にはカウントする。）

2. 過渡期

- 当面も将来的にも、教育課程外で実施される「全員参加にむけた試行」を一部の生徒が参加して行う必要性は続く。（…これまでの経緯から「エンリッチ」と呼称する。）

3. 現状

- 「生徒会」のメンバーと「エンリッチ」のメンバーは、かなりの程度、重なっている。
- 放課後や土休日等における生徒の活動は、一人ひとりの生徒について「部活動」「生徒会」「エンリッチ」が重ならないようにキメ細かく調整する必要があるが、「部活動」「生徒会」が特別活動部、「エンリッチ」は改革推進部の所管となっており、調整に要する時間が保障されていない。
- 地域等からの要請に対しては「生徒会」と「エンリッチ」の二つの窓口＆ルートがあり、簡素化が求められている。（…改革推進部員は今年度末を以て廃止する案も）

4. 方向性

- ◎ エンリッチに係る諸活動は、教育課程内で行われるもの（11/2の模擬選挙）も、教育課程外で行われるもの（夏の!OPENエンリッチ等）も、特別活動部内に係を置いて担当する。
… 上記「現状」で記した問題がすべて解決する。
- ※ 以上につき、管理職に検討を要請する。

（H29.1.24.浦崎）

【追記】

- ・ H29年度の校内組織体制は、上記の内容を反映した形に改変された。

「模擬選挙」への参加依頼

可児高等学校

H29年11月2日に本校で開催される「模擬選挙」のグループディスカッションにおいて、候補者の掲げる政策のメリットやデメリットについて、大人と生徒の混成チームで議論できるよう、ぜひ皆様に参加・協力をお願いします。

◆ 可児高校の「模擬選挙」… 地元の絶大な支援により他校にはない充実度

- 模擬選挙とは… 18 歳選挙権の実施に伴い、主権者教育が高校に求められるようになった中で、可児高校は2年に一度模擬市長選を実施しています。
- 可児高校では、本番に自信をもって投票できるよう、「選ぶ力」を高める工夫をしています。単純な投票をするだけでなく、各候補者の掲げる政策のメリットやデメリットについて、グループディスカッションを通して認識を深めます。
- 内容や構成は、生徒の意識が少しでも高まるよう、生徒有志が地域の NPO 縁塾や可児市議会、可児市選挙管理委員会と共に企画し作り上げます。



◆ H29 年度の模擬選挙

- H29 年度のテーマは「戻ってきたい可児」
- 模擬市長候補者たちは、「戻ってきたい可児」を目指し、以下の政策・ビジョンを掲げて出馬します（3月現在）。
 - A 子どもたちを大切にする可児（子育て支援、小中高までの地域教育・進路支援等）
 - B 夢追い人を応援する可児（起業支援、働く場所となる企業誘致、働き方改革等）
 - C 地域で支え合う可児（地域医療、コミュニティによる介護支援、防災等）
- 11月2日(木)6～7限、「岐阜県ふるさと教育週間」の一部として実施予定。

◆ ぜひグループディスカッションへの参加を！

- 「若い考えが大事」、選挙の際にはよく言われる言葉ですが、高校生だけで話し合っても話は広がっていきません。子育ての経験、働いた経験、病気になった経験がある「大人」と話すことで、実社会への視野が広まる。それが、可児高校の地域課題解決型キャリア教育エンリッチ・プロジェクトのポイントです。
- 1グループあたり1人の大人に入ってください。自らの経験を語っていただき、高校生と一緒にどの候補者に投票するべきか、投票した際のメリット・デメリットについて話し合ってみませんか？
- 時期が近づきましたら、また申込用紙を配布させていただきます。

別紙様式3

政治的教養を育むカリキュラム開発事業 決算報告書

学校番号	4 1	学校名	可 児 高 等 学 校	課程	全日制
------	-----	-----	-------------	----	-----

(単位：円)

節	金 額	積 算 内 訳	
報 償 費	1,230,000	地域課題解決型キャリア教育プログラムの企画に係る謝金	全額を「NPO法人 縁塾」に支出 夏期分 756,000 冬～春期分 324,000
		事業評価のデータ分析および指導助言に係る謝金	全額を河井亨氏（立命館大学教育開発推進機構講師＝教育評価の専門家）に支出 150,000
旅 費	414,268	講師旅費	文科省職員(5/27) 24,100
		業務旅費 (視察／連絡調整)	遠野市, 東京都, 富士市, 京都市, 丹波市, 雲南市, 福岡市 390,168
消 耗 品 費	80,000	文房具類	マジック, 卓上ホワイトボード, 付箋, 磁石 等, KP法で使用するもの 77,000
		資料代 (9/24・遠野市)	3,000
使 用 料 及び 賃 借 料	177,399	バス借り上げ料 (生徒の研修交流会参加)	岐阜市(7/17), 牧之原市(7/18)分 一括 177,399
合 計	1,901,667		

担当者氏名	教 員	浦崎 太郎
	事務職員	尾関 英明

※枠の大きさは必要に応じて変更願います。また、不要な項目は削除して作成願います。

